

NPO 法人
環境カウンセラー千葉県協議会

EC千葉

環境保全活動

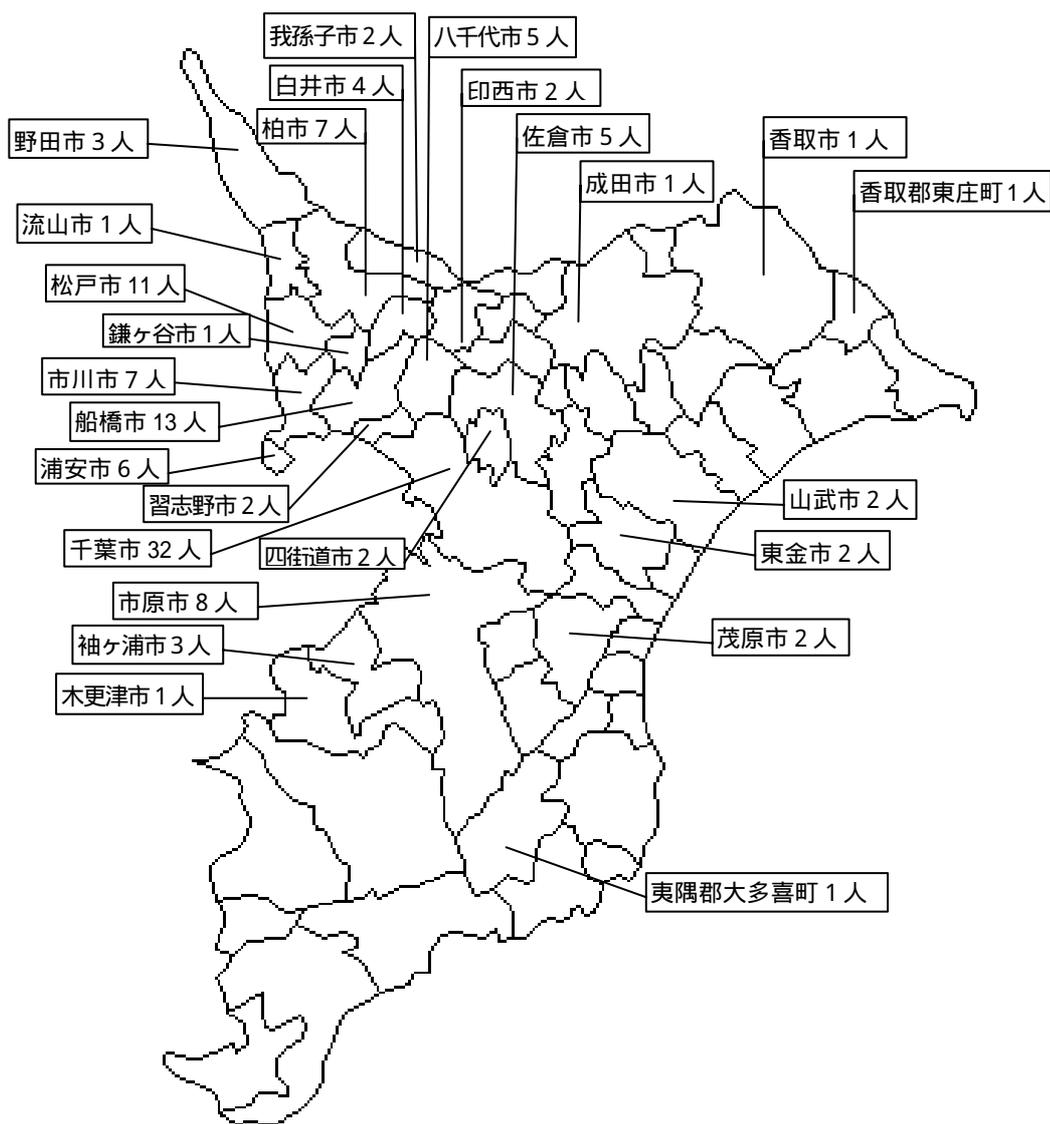
10年のあゆみ

平成20年12月

特定非営利活動法人
環境カウンセラー千葉県協議会

千葉に広がる環境カウンセラーのネットワーク

数字は千葉県内各市町村の EC 千葉の会員数



県外 3人

目次

記念誌発行にあたって	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
環境カウンセラー千葉県協議会設立 10 周年を迎えて	戸村 泰	3
創立 10 周年を迎えて	小角 浩	4
憂きことの なおこの上に・・・	村上 利子	5
NPO 法人初代理事長を振りかえって	土田 茂通	6

10 年のあゆみ

1. 各部・各センターの活動

事務局	服部 達雄	7
総務部	古畑 義正	8
事業部	茂利 晃	9
広報部	倉田 智子	10
情報部	國廣 隆紀	11
環境マネジメントシステム支援センター	二宮 恵	12
地球温暖化対策センター	辻川 毅	13
廃棄物対策センター	石黒 忠	14
環境学習センター	種本 利治	15
水環境対策センター	古畑 義正	16

2. 外部団体との協働

平成 15 年度 県と NPO の協働事業	國廣 隆紀	17
平成 15 年度 東京電力(株)との協働事業	辻川 毅	18
平成 16 年度 環境省関東地区環境対策調査官事務所	土田 茂通	19
平成 17 年度 県との協働事業	二宮 恵	20
平成 18 年度 千葉県パワーアップ補助金事業	戸村 泰	21
平成 19 年度 千葉県パワーアップ助成事業	種本 利治	22
平成 20 年度 千葉県委託業務	種本 利治	23
ECU との関わり	土田 茂通	24

3. 各地域における活動

東金市	林 正徳	25
袖ヶ浦市	國廣 隆紀	26
鎌ヶ谷市	倉田 智子	27
白井市	辻川 毅	28
エコメッセ	土田 茂通	29

4. 思い出(あんなこと・こんなこと あったでしょう)

EC 千葉県協議会発足前後の思い出	小角 浩	30
NPO 法人化の経緯	國廣 隆紀	32
EMS 支援センター設立の頃	林 正徳	33
企業環境セミナー発足のあれこれ	有馬 富穂	34
企業環境セミナーの変遷について	廣川 一男	35
EA21 に取り組むにあたって	二宮 恵	36
廃棄物対策センターの活動を振り返って	大山 長七郎	37
環境学習センター設立のころ	林 正徳	38
自然観察会(県外宿泊編)を企画して	小角 浩	39
ホームページについて	有馬 富穂	40
EC 千葉設立時の思い出	佐藤 素子	41
EC 千葉の10年は私の10年	鈴木 茂夫	42
もう10年になるのですね	小西 由起子	43
EC 千葉での10年の想い	野口 康男	44
千葉と北海道の10年	本間 格	45
とりとめのない話	倉田 智子	46
ワードと格闘の日々	河井 恵子	47
NPO 活動が研修と結びついて	鈴木 優子	47

5. 設立10周年記念行事	48
---------------	----

6. 一言メッセージ	49
------------	----

資料編

7. 10年間の組織及び役員	51
----------------	----

8. 設立当時の資料	55
------------	----

9. 現在の資料	58
----------	----

10. アルバム	60
----------	----

11. 年表	63
--------	----

編集後記

記念誌発行にあたって

平成 8 年(1996 年)9 月、わが国では環境に関する広範かつ専門的な知識や豊富な経験を有する人材の発掘と把握を行い、さらにその能力を向上させつつ活用することを通じ、環境学習・環境保全活動を支援することを目的に「**環境カウンセラー登録制度**」が創設されました。この制度は、自らの知識や経験を活用して環境に関する相談や助言等を行なおうとする者を毎年度広く一般から公募し、一定の要件を満たす者を「**環境カウンセラー**」(EC)として、環境省が登録、公表するもので、環境保全活動等に関する相談・助言の要請や、環境学習に際しての講師派遣の依頼に応えようとするものです。

平成 8 年度は、全国で「市民部門」に 321 名、「事業者部門」に 665 名が登録されました。

こうして登録された千葉県内の有志が、県内で組織的な活動しようとする意を固め、同志に声をかけ、平成 10 年 2 月 8 日、会員 56 名からなる「**環境カウンセラー千葉県協議会**」(EC 千葉)を設立いたしました。

平成 9 年 1 月の阪神・淡路大震災で多くのボランティア団体が救援及び復旧対策を行って成果をあげており、かくして社会に注目を浴びた時期誕生させた EC 千葉も任意団体としていずれにも偏ることなく、関係各位のご指導とご協力を賜りながら、ひたすら県内の環境保全や環境学習に取り組んできました。

こうした活動の中で、平成 13 年 3 月からの堂本暁子知事の県政で、県内の NPO 活動の活発化の機運が高まり、EC 千葉も会員数が 100 名を超え、平成 14 年 9 月から NPO 法人化の検討を始め、平成 15 年 7 月 22 日に晴れて「**特定非営利活動法人環境カウンセラー千葉県協議会**」(EC 千葉を継称)として、堂本知事から認証をいただきました。

新しく NPO 法人としてスタートした EC 千葉は、組織としての目的や事業について定款やパンフレットに明らかにし、内部的な運営については細則などに定めて活動を続け、現在に至っています。

目的：

会員の環境保全に関する専門的な知識・経験にもとづき、市民、市民団体、事業者、教育・行政機関などの各主体とパートナーシップを形成し、環境保全活動の推進に貢献することを目的とする。

事業内容：特定非営利活動に係るつぎの事業を行う。

- (1) 環境保全推進の知識向上のための環境セミナー、研修会、自然観察会、見学会などの開催
- (2) 環境問題に関する諸調査、改善策の検討、政策の提案
- (3) 各地の環境イベントへの参加による環境保全の啓発
- (4) 環境関連の講演会、研修会の講師派遣および書籍出版
- (5) 行政機関、事業者などの環境関連事業に対する支援
- (6) まちづくりに関する諸調査、政策の提案
- (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

組織体制：

役員：理事 20 名、監事 3 名（会員名簿参照）

執行部(各部)：

理事長、副理事長 4 名

事務局・・・EC 千葉の事務連絡・調整を行う。

総務部・・・EC 千葉の活動の総務および会計を行う。

事業部・・・EC千葉の活動の企画、会員相互研鑽のための研修、環境にかかる各種調査研究および事業の実施を行う。

広報部・・・EC 千葉の活動の広報を行う。

情報部・・・EC 千葉の活動に係る情報の収集および発信を行う。

プロジェクトセンター（各センター）：

環境マネジメントセンター（EMS 支援センター）

・・・ISO 14001 および EA21 の認証取得支援などを行う。

地球温暖化対策センター

・・・省エネルギー運動などの地球温暖化対策に関する活動を行う。

廃棄物対策センター・・・循環型社会形成のための諸活動を行う。

環境学習センター・・・環境教育、環境学習を推進するための活動を行う。

水環境対策センター・・・水環境対策に関する諸活動を行う。

会員数：平成 20 年 11 月現在 128 名

組織の事務所所在地：

〒261-0011 千葉市美浜区真砂 3 丁目 18 番 2 棟 505 号（戸村 泰方）

関係各位のご理解とご協力のもとに、このような経緯により、私たち EC 千葉は貴重な経験を積んで成長してきました。平成 10 年 2 月 8 日以来の 10 年間のことがらを記念誌にまとめ、将来の活動に供することといたしました。

（國廣 隆紀）



環境カウンセラー千葉県協議会設立 10 周年を迎えて

理事長 戸村 泰

平成 4 年（1992）の地球サミット、平成 5 年環境基本法の制定とわが国の環境政策の本格的展開の時期に、「環境保全活動に関心を持つ人々の多様な相談・ニーズに対応（すなわち、解説・相談・指導）することが出来る人材を環境庁（当時）に登録する制度として、環境カウンセラー制度が、平成 8 年 9 月に誕生しました。

そして、登録された第 1 期生を中心に、環境保全への強い使命感を持ちつつも、具体的な活動の場が定められたわけではない中、如何に活動をするか、暗中模索されたことは容易に想像されます。そして、各地域に協議会が生まれました。千葉県協議会も、平成 10 年 2 月 8 日に全国でも最も先行する 1 つとして、諸先輩の並々ならぬ努力によって設立されました。

以後、諸先輩の継続した努力に加え、中小企業向け環境経営システム EA21 の普及や環境教育の推進などの担い手としての使命が明示されたことも幸いして、その活動は、絶える事無く発展しました。平成 15 年には、NPO 法人化を成し遂げ、ボランティア精神で、行政・企業・市民など多くの主体と協働して事業を推進できる体制が整いました。

この 10 年間に培った当協議会の活動の精神は以下のようになりましょう。

- 1．会員は、環境保全に関する高度で広い知識・経験を得るべく常に研鑽に勤め、かつ、ボランティアで公正な環境コンサルティングが出来るよう勤める。
- 2．協議会は、個々人の対応以上の優れた対応が出来ることを目指し、行政・企業・市民と協働する。
- 3．環境保全に対する強い・明確な使命感を持ちながらも、元気で、仲良く、楽しい活動を目指す。

この 10 年間、絶える事ない、毎月の理事会開催、各種研修会や各主体との協働事業の実施を通して、千葉地域の環境保全にいささか貢献してきたと自負できるのも諸先輩会員及び関係各位の達見と熱意によるものと心から敬意を表します。

益々、環境問題が大きく、複雑化する中、当協議会もたくましく前進したいと思います。10 周年を迎えるにあたり、絶大なご支援を賜っている関係行政（環境省・関東地域環境事務所、千葉県、各市町村） ECU、商工会議所、千葉県環境財団、企業、市民団体のみなさまに、心から感謝申し上げます。



創立 10 周年を迎えて

初代代表 小 角 浩

環境カウンセラー千葉県協議会創立 10 周年を迎えるに当たり、128 名を数えるに至ったメンバー揃って祝えることを共に喜びたいと思います。と同時に、設立に携わった者の一人として、よくぞ此処まで、の想いが実感です。

環境カウンセラーとして、環境庁長官(当時)により登録されたとはいうものの、生みの親はあっても育ての親の姿が見えてこない当時の状況では、座して待っても新たな活動の芽も生じなければ、輪も広がらない、そのためにも何らかの自主的な組織化を、の想いが設立に向けての推進力でした。

当時、既に地方公共団体では、それぞれ市民に対して環境に関するアドバイザー、モニター等を委嘱しており、少なくとも都道府県レベルでは殆んどが何らかの制度をスタートさせていました。

あの頃は、とにかく環境カウンセラーとして産声を挙げたからには、一日でも早く社会、とりわけ地域社会に認知して貰わなければ何も動かない、といった切羽詰った感覚すら抱いた記憶があります。殆んどが初対面どうしの寄り集まりから、いろいろ意見を交換しつつ、世話人会、発起人会をたちあげ、とにかく創立総会を無事終了。以来 2 年間、皆さんに支えられて代表をつとめ、村上会長にバトンタッチ、さらに土田理事長誕生の NPO 法人化、そして現戸村理事長の時代へと着実に歩んでこられたことは、日ごろのメンバー各位の献身的なボランティア精神に支えられた積み上げの結果として、大いに評価されて然るべきものと、共に喜びたいと思います。

代表交代後は顧問として、会のバックアップ態勢を執らせて頂いておりますが、なかでも自然観察会の企画を通じて、メンバーご夫婦参加歓迎の尾瀬、上高地、十和田・八幡平、と楽しく続けて参ったことも、会の活力増進の一助になったのでは？と密かに自負しています。

目下、東京商工会議所[編]、環境カウンセラー全国連合会[著]の「<緑化>エコリーダー」(仮称)を、連合会の「自然環境保全・緑化」担当常務理事として、当協議会有志をはじめ、全国の連合会会員有志の協力を得て、刊行を目指しています。

今後はこのテキストを教材として、将来の環境カウンセラーに続くエコリーダー育成に向けて、メンバー各位と共に研修会開催等、継続的に活動して参りたいと考えています。協議会活動と平行して、それぞれの地域社会において活動を続けられている EC 仲間が、情報交換の場として当協議会を効果的に利用し、一層多様性のある EC 個人、協議会として社会に浸透し、持続性のある、個性豊かな人材の輪を拡げて行かれることを期待しています。

「憂きことの なおこの上につもれかし かぎりある身の力ためさん」*

初代会長 村上 利子



はじめに

千葉の皆さまにはお変わりなくご活躍の事とおよろこび申し上げます。私こと昨年6月に環境省より大臣賞を頂戴致しました。身にすぎたおほめと病の為にもう活動は適いませんのでご辞退申し上げましたが、再度のおすすめに頂戴に及びました。御推薦くださいました千葉の皆様方のおかげで、感謝申し上げます。

さて思いおこせば昭和47年「くらしの会」48年に千葉県消費者団体連絡協議会を立ち上げました。49-50年に石油ショックで消費者団体は何としてもしっかりしないといけないと、爾来真剣に行政と共に勉強に励みました。会員の皆様はまだその頃は企業の戦士で希望にもえていらっしやったことでしょう。世の中は過渡期で三種の神器の電化製品が私達の生活をうるおしてくれました。が同時に次々に新しいものに移り、替える、物を大事にしない癖がついてきていました。公害がふえて、自動車もふえ、エネルギー多消費国日本になっていきました。被害に泣く人がふえ、私は消費生活苦情相談員(国民生活センター11期)になりました。県の環境審議会の委員になりその後副会長になりました。

沼田知事と共に 石油ショックの後、千葉県はものを大切に作る運動 - 省エネ省資源千葉県協議会を立ち上げ沼田知事が会長、商工会議所会頭と村上が副会長で出発しました。沼田知事と共に、この時から私は省エネ大会の議長をつとめてきていました。後年省エネルギーセンターより省エネルギーの補助事業に参加して、220万円の事業(1/2補助)に誰も手を上げないので、私が受けました。終わって若いセンターの技師が『八百屋が株式会社のようなことをして大変だね』と言い...その時私は 気がついた者ががんばって受けなくては後につづく人はいないでしょう と答えました。ほんとは大変でしたがやってよかったと今でも思っています。環境によい事を考える時、人はやさしく強い心がもらえます。その後、省エネをしようにもライトアップでこまっていたが、この度制度ができました。~大工場だけでなくその事業所や工場事務所まで省エネを普及し開示するように義務づけられました~と、嬉しい第一歩です。

会長として それとなんと幸せだったでしょうか。環境カウンセラーに応募して皆さんにお逢いでき、さらに千葉県として御一緒に、大学を優秀な成績で卒えた方やスバラシイ考えの方、力強い方々と一緒に勉強できて本当に幸せでした。とんでもない事で私を会長に?下働きは千葉市に住んでいますから出来ますが、会長になるのに悩みました。しかしよく考えれば只今の会は女性が少ないです。世の中は半々ですすめる事がベターで、まして環境は女性にも力を出してもらいたい領域がおおきい。まず試金石としてご迷惑をかけるかもしれませんが、あえて私になろうと...、散々お世話かけました。只今83才の私、思い出してフッフ、ニンマリと楽しかった事思い出しています。病んではじめて健康の大切さを知りました。いつも元気で、気がおとろえてはおしまいです。

* 出典：山中鹿之助



NPO 法人初代理事長を振りかえって

初代理事長 土田 茂通

設立 10 周年を迎えて真におめでとうございます。

10 年間の後半 4 年間にわたり、NPO 法人理事長を担当させて頂き、EC 千葉を安定化と継続、若干発展させて次期理事長、戸村氏へバトンタッチできたことは会員皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。

私が、広報に投稿した記録を振り返ると、広報 7 号「原子力発電所見学記」、14 号「夏季研修会を開催」、17 号「エコメッセ 2002 でハイブリッドカーの走行実績を展示」、18 号「環境カウンセラー千葉県協議会設立 5 年の振り返りと期待」、そして NPO 法人化した平成 15 年の 19 号「NPO 法人化への意義と役割」、22 号「新人特集号 協議会の活動方針、今後の会として希望など」、24 号「佐原市・子どもと一緒に環境学習の会」、25 号「新年度スタートにたって」、30 号「EC 千葉のボランティア活動の現状」でした。その時、その時の、EC 千葉の運営上の問題点を整理しながら現状把握を行い、特に私自身の現状把握も努めながら原稿を書き下ろしたこと思い出します。今読み返してみると、目指したものが現在は徐々に形になってきていることなど感無量です。

平成 15 年に環境カウンセラー千葉県協議会から NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会に生まれ変わり、初代理事長を努めさせていただくことになりました。平凡な器量と力量不足で、重要になってきた EC 千葉の CSR や社会に信頼を得ることはその緒に就く程度であったと反省しています。平成 15 年当時の EC 千葉の環境保全活動の実態は、内部的な活動が多く一人前とはいえない状況にありました。しかし外部的な活動へ展開するきっかけとして千葉県 NPO 推進課の施策である協働事業に提案することで始まったといえます。

NPO 法人になった平成 15 年は、2 つの大きなイベントに取り組み、NPO 法人の仲間入りを果しました。一つは千葉県に始めて協働事業を提案し、県から受託することになった協働提案「地球温暖化防止活動推進員の養成・ブラッシュアップのための研修会の開催」であり、二つめは 4 月ころに東京電力の小林環境部長より私に相談があった東京電力との協同事業「地球環境千葉フォーラム 2003」の開催で、この 2 つのイベントは同時並行して推進しました(広報 20 号参照)。平成 17 年には県との協働事業「EA21 普及セミナー」、平成 18～19 年は県補助金事業、平成 20 年は県環境政策課の「環境学習地域教材作成事業」に着手と県との関係を発展させていることはうれしいかぎりです。

EMS センターは継続的な活動を行いながら EC 千葉を運営資金で支え、地球温暖対策センター、廃棄物対策センター、環境学習センターは各々の役割を果しつつ、環境学習センター中心の環境学習へ協力体制、専門家の派遣など、次第に軌道にのせることになり、県内に独自の異彩を放った環境学習を充実展開させる道が開けてきていることは、EC 千葉はボランティア精神に満ち溢れ、会員の一致協力している賜物と評価されると思っています。

各部・各センターの活動

会の円滑な運営のため設けられた組織は事務局のほか、
4部（総務・事業・広報・情報）と5プロジェクトセンター
（環境マネジメントシステム支援・地球温暖化対策・廃棄物対策・
環境学習・水環境対策）である。
以下各組織の活動内容を紹介する。

事務局

事務局長 服部 達雄

1. 設立

事務局は平成 11 年度に設けられ、平成 15 年度から専任の事務局長が置かれ、EC 千葉の活動全般についての事務連絡・調整を行える本格的機能ができた。

2. 活動内容

- (1) 平成 15 年の総会において特定非営利活動法人(NPO 法人)への移行が議決され、それをスムーズに実現するため、定款及び運営細則の制定、特定非営利活動法人設立の千葉県知事への申請と認証取得、及び法務局への法人設立登記等を関係部とともに活動した。
- (2) 以後、毎年度、定時総会の開催、前年度の事業報告と決算、新年度の事業計画と予算等の作成と承認などの業務を適正に行えるよう関係部と共に活動している。また、NPO 法人に求められる適正な年次報告を千葉県、法務局、県税事務所等に行っている。
- (3) これらの業務をスムーズに行う一助として「対外報告書類の作成と提出マニュアル」(平成 17 年 3 月)、「EC 千葉・事務処理要領」(平成 16 年 8 月)等を、関係部と共に作成した。
- (4) 定例理事会を議長補佐として司会し及び議事録作成を担当している。また理事会への会員の傍聴呼びかけや議事録の会員への発信などにも努力している。
- (5) 環境省、環境省関東地方環境事務所、県、県環境財団及び市町村や環境カウンセラー全国連合会(ECU)など多くの他団体との連携と協力を EC 千葉として積極的に図り、各部および各センターで環境保全活動、環境学習及び啓発活動を推進していけるよう事務局として努力している。

3. 今後の抱負

今後とも各部、各センターと協力し、着実に実績を積み重ね、環境関係 NPO 法人としての実力、知名度の向上をはかり、EC 千葉のさらなる発展を支えてゆきたい。

総務部

部長 古畑 義正

1. 実績

平成10年に設立のEC千葉は、総務、企画、広報の3部が組織されスタートした。

広報創刊号で初代の籠谷公男総務部長は平成10年度の事業計画と予算についてコメントしている。総務部は会の全般の活動を守備範囲として発足したが、その後会の発展に伴い事務局、事業部などが新設され、業務範囲の専門化が図られた結果、

- (1) 会員の把握
- (2) 会費の徴収と会計事務
- (3) 総会の準備と開催 等を担当している。

年度	会員数	備考
10	56	設立
11	73	
12	102	
13	115	
14	104	
15	116	NPO化
16	124	
17	127	
18	127	
19	123	
20	129	

各年の会員数 — 総会時

表からも明らかなように、微増減しながらも会員数は増加している。

2. 今後の抱負

- (1) 会員の更なる勧誘。
- (2) 会費の早期徴収に務める。
- (3) 会計事務を適正に行い理事会に適時報告できるよう努める。
- (4) 新入会員の歓迎会や新年会の開催を図る。
- (5) 通常総会を円滑に開催出来るよう準備する。

事業部

部長 茂利 晃

事業部の役割

初期の EC 千葉の事業部の役割は、各種の環境に関する全てのイベントを担当する部門として企画部会の名称でスタート、環境保全活動の普及活動を始めた。環境セミナーや宿泊研修会、工場施設見学会、自然観察会の企画運営やエコメッセを始め各自治体の環境フェアに参加することにより、環境保全活動の普及と EC 千葉の知名度の向上に努めてきた。平成 12 年に EMS 支援センター、平成 13 年廃棄物対策センター、平成 14 年に地球温暖化対策センター、平成 15 年に環境学習センターを、それぞれ分離独立させ EC 千葉の活動を充実させてきた。平成 15 年に NPO 法人になり 4 センターの活動が軌道に乗った以降の事業部の役割は、より高い価値観を求めた環境セミナー、宿泊研修会、公開環境講座、工場施設見学会、各種の環境フェアへの参加に注力している。環境セミナー、宿泊研修会、公開環境講座等の、招聘した講師の方々や講演演題は年表を参照乞う。

1. 環境セミナー

EC 千葉協議会設立以来毎年継続的に開催され、昨年で 17 回を数える。平成 14 年までの環境セミナーは、種々団体や専門の立場で活躍している EC を講師に迎えて年 2 回開催、EC が取組んでいる環境保全活動の実情を中心に学んできた。平成 15 年以降は総会の特別講演として開催し、講師には著名な方にご協力頂き、国の政策にリンクした高いレベルの講演、EC の啓発と学術上のレベルなどを知る機会を提供している。参加者の反応はよく、期待されている。

2. 宿泊研修会（夏季・秋季）

宿泊研修会は平成 11 年より毎年開催、9 回を数える。テーマはタイムリーな課題を選定し、午前には基調講演を外部の講師にお願いし、午後から夜にかけてグループ討議を行って纏め、次年度の活動に反映している。終了後には宿泊者有志で深夜まで討議を続けるのが慣わしとなっている。テーマの例を挙げれば、平成 15 年「NPO 法人としての今後の活動の活性化」、平成 17 年「高校環境教育授業」、平成 19 年「地球温暖化対策について」などである。

3. 環境公開講座

平成 16 年に一般市民、EC 向けに環境公開講座を新設し、EC 千葉の対外活動の目玉の一つとしている。その時その時の話題のテーマを選定し、質の高い講演を企画してきた。平成 19 年度で 7 回を迎える。

4. 工場・施設見学会

平成 10 年に第 1 回の見学会を開催し、平成 19 年度で 16 回を数える。見学は概ね県内の環境に先進的な企業や施設を選んでいる。業種も多岐にわたる。

5. 今後について

環境セミナー、宿泊研修会、工場施設見学は設立以来毎年継続的に実施してきている。これも会員の皆様や外部の講師の方々及び工場・施設の方々のご協力とご支援の賜物である。今後、時代とともに変わる環境問題に対応し、研鑽を重ねていく必要がある。

広報部

部長 倉田 智子

平成10年5月10日の創刊号発行に始まり、平成20年8月1日までに34号を数えた。歴代広報部長は、佐藤素子（11号まで）國廣隆紀（18号まで）野口久（21号まで）本間格（30号まで）倉田智子（現在）である。私は本間部長時代から編集に携わっている。

本間氏の代から役員紹介、新入会員紹介は各自原稿を出していただき、内容について判別できる固有名詞は消している。個人情報を取った形で、現在も継承している。

掲載記事は、初期はバラエティーに富んでいたが、協議会の発展につれて、活発な行事の展開があり、そのため実施記録や感想が中心となってきている。

その編集の作業は誤字脱字、“てにをは”などの助詞の修正のみでなく、差別語とされる類の語句（例：父兄→保護者）や、話ではいいが文としては残せないものに及ぶ。会員の経験・経歴からいうと、佐藤氏の思い出にもあるとおりの編集段階での変更は抵抗が大きい。

事業者部門の方々は、企業で報告文を書き慣れているため、無駄がなく文体も整っている原稿を出される。健筆、名筆であり、紙面の都合で全文を掲載できないのは真に忍びないことが多々ある。すばらしい文章を編集者の特権として、読ませていただいている。

広報のフォームにしたがって、原稿を書く方もおいでだが、編集作業では見出しは大きくしているし、囲み枠もある。また執筆者氏名は本文よりポイントを上げている。記事中でも読みやすいよう段落の工夫や前後の余白の問題、記事のバランス、写真があれば大きさや位置等々、紙面構成にはさまざまな制約があり、体裁がある。投稿者はそこまで考慮されず、文字数だけでくる。

5W1Hの情報のほか、TPOもあり、結構編集は難しい。修正が多くなる場合投稿者らしさが消えるという批判があることも聞き及んでいる。また万全の注意を払っていても、たまには編集ミスもあり、これにはお詫びを申し上げるしかない。

編集の結果、記事の価値が高まるよう配慮はしているのだが、真意は伝わらない。協議会を「環境を扱う趣味の団体」という捉え方をすれば、同好会の会報にすぎないのですべしと掲載するが、私は社会的には「トップランナーを目指す環境団体」と思っているため、報告、記録に過ぎないとしても編集に「力」が入る。行事の実施報告は執筆者の熱意を表現し、感想の一部となる反省も、自己のものに納まってはならないと信じている。

協議会の構成員が書く記事は、それなりのメッセージを発信できる内容にしていきたいと思う。皆さまのご協力なしには実現できないことである。

設立10年の節目に当たり仕事は多いが、設立以来の歴史をふりかえることが出来たことは望外の喜びであった。広報に関わることになって初代部長のご苦勞に思いが至った。現在1200部印刷し、関係機関および全国の仲間に配布しているが、事務的、経費的にも負担軽減のため、今後は電子ファイルでの配信を考える時期に来ているのではと考える。議論を尽くしたいものである。

情報部

部長 國廣 隆紀

1. 発足

平成 12 年 2 月の環境カウンセラー千葉県協議会（EC 千葉）総会において、情報部の新設が承認され、当時の EC 千葉の規約にはその役割は「情報の収集と発信を行う」とあり、これは今も変わっていない。しかし同年 3 月の運営委員会の議事録には、情報部の活動として、1) 県の施策に対する意見の提案 2) エコメッセなどの外部情報の収集と EC 千葉での対応検討 3) メーリングリストによる会員間の情報交換 4) EC 千葉のホームページによる EC 千葉内外への情報発信 5) EC 千葉から外部への公式情報の発信管理などがあげられており、外部との情報交換は情報部で一元化しようとした向きも見受けられた。

2. 活動実績

(1) ホームページ

EC 千葉の公式ホームページとして、平成 11 年 10 月に開設し、現在に至っている。これの開設から現在までの維持管理はすべて有馬富穂現情報部副部長にお願いしてきた。当初は EC 千葉の紹介が中心であったが、最近は各センターの行事案内や実績報告の掲載、また広報も毎号掲載している。

(2) メーリングリスト

情報の伝達及び共有化のために、会員相互のものと役職相互のもの 2 つのメーリングリストを有馬富穂現情報部副部長及び野口康男現事務局次長の尽力のもとに活用してきた。

① 会員相互のもの (ec-chiba@freeml.com)

平成 12 年 5 月、当時の小角浩会長は、「開設されたメーリングリストは、会員を可能な限り包含し、自由な意見交換の場として有効活用を図り、育て上げるべくお互いに努めたい・・・」とメーリングリストで述べられている。しかし、その後、ウイルス騒動で一時中断し、平成 14 年 1 月に再開して、以後、今日までに 1,600 件余りの発信がなされており、会員への有効なコミュニケーションの手段となっている。

② 役職相互のもの (ec-management@yahoogroups.jp)

平成 13 年 3 月、組織運営のために役職が集うのは多くの時間と経費がかかるため役職専用のメーリングリストが開設され、今日までに実に 5,200 件余りの発信がなされており、EC 千葉の活動の議論の場となっている。

3. 今後の抱負

対外的にはホームページ、組織内部ではメーリングリストの活用を図り、的確な情報の収集と発信を行っていききたい。

環境マネジメントシステム支援センター

センター長 二宮 恵

1. 設立

設立総会：平成 12 年 2 月 6 日センター員 28 名でもって設立

(林氏思い出：「環境マネジメントシステム支援センター設立の頃」参照)

2. 活動内容

(1) 企業環境セミナーを年 1 回開催し、今年第 11 回目となる。

第 1 回は平成 10 年 10 月 2 日幕張のセイコーエプソンで開催。

(有馬氏思い出：「企業環境セミナー発足のあれこれ」参照)

当初はセンター員が講師の基調講演、事例紹介(数社)、パネルディスカッション、個別相談を行っていたが平成 16 年度からはパネルディスカッションをやめ、平成 17 年度からは事例紹介をやめて、代わりに基調講演のあと 3 つの分科会に分かれて参加者とのディスカッションの機会を多くした。

(廣川氏思い出：「企業環境セミナーの変遷について」参照)

(2) ISO14001 構築及び運用支援並びにセミナーなどへの講師派遣
だんだんと活動の機会が少なくなってきた。

(3) エコアクション 21 普及セミナーを積極的に実施している。

主催する大きな普及セミナーは

平成 17 年度：6 回(内 4 回は県補助金事業)、平成 18 年度：3 回、

平成 19 年度：2 回、平成 20 年度：3 回予定。

(行政との協働事業：「エコアクション 21 普及セミナーの開催」参照)

(4) EA21 構築支援及びセミナーなどへの講師派遣
積極的に活動している割には案件が少ない。

(5) ISO14001 及び ISO9001 内部監査員養成講座

毎回、定員一杯かそれに近い参加申込みがある。

平成 20 年度は ISO14001 内部監査員スキルアップ講座を新設する。

3. センター員(平成 20 年 9 月現在)：44 名

(1) ISO14001 審査員資格者：31 名

(2) EA21 審査人：24 名(千葉県の EA21 審査人 42 名中)

最近、EA21 審査人の入会が多い。研修会では ISO14001 及び EA21 についての力量アップを目指している。

4. 次のステップに向けて

(1) ISO 関係で活動の機会を増やす。

(2) EA21 の普及に力を注ぐ。

(3) 内部監査員養成、スキルアップ講座を増やす。

地球温暖化対策センター

センター長 辻川 毅

1. 設立

平成 10 年に地球温暖化対策推進法が制定され、地球温暖化防止が大きな問題となり、これを受けて EC 千葉では、平成 13 年 4 月 20 日に、「地球温暖化防止センター」が、プロジェクトセンターの一つとして、約 30 名で発足した。これによって、個人レベルでの実践活動から組織的な体系での活動を行うことが出来るようになった。平成 13 年 5 月に千葉県地球温暖化防止活動推進員制度が発足し、11 月に県が主催し開催された「地球温暖化防止活動推進員養成講座」に当センター員が講師となるなど協力した。平成 15 年度に NPO 法人となった機会に「地球温暖化対策センター」に改称した。

2. 活動内容

当センター員は、たゆまぬ学習研鑽によりレベル向上に努め、その活動形態の多くは、EC 千葉の各センター等と協働で活動を行っている。またセンター員それぞれの地域自治体、学校、教育委員会等と連携して積極的に推進している。

(1) 環境省・千葉県からの委託事業（環境学習センター等との協働で）

- ① 平成 15 年度千葉県受託事業…佐原、柏、袖ヶ浦地域で「地球温暖化防止活動推進員の養成・ブラッシュアップ研修会の開催」を実施
- ② 平成 16 年度環境省受託事業…佐原市で「子どもと一緒に環境学習」を実施。
- ③ 平成 17 年度から 4 ヶ年にわたり県立船橋北高校・県立茂原高校・東京学館浦安高校で「高等学校での環境学習事業」をそれぞれ実施。

(2) 他組織、団体との協働事業の開催

- ① 平成 15 年度「東京電力との協働事業」…地球温暖化対策学習会の実施（講座、見学会、フォーラムの 3 回シリーズ）
- ② 平成 17 年度「千葉友の会環境学習会の開催」…夏休み親と子の環境学習会

(3) 地域学習会等の企画と講師の派遣

- ① 平成 18・19 年度 日本環境技術協会の「子どもたちと環境学習会」（市川市、埼玉県騎西町、京都市、土浦市、神戸市で開催）への講師派遣
- ② 千葉市、袖ヶ浦市、八千代市、鎌ヶ谷市、市川市、袖ヶ浦市、松戸市などで開催

(4) 地域イベントへの支援参加（展示・実演、講演講師、後援など）

エコメッセ、環境シンポジウム、東金市環境イベント、白井市環境フォーラム

3. 次のステップに向けて

「地球環境保全活動は、全員参加で学習し、実践しよう。」

- (1) 各主体連携で「地域環境力の向上」を図る、「地球温暖化対策地域協議会」への発展
- (2) 子どもたちと環境への取り組みを地域レベルで活性化（教育委員会、学校）

廃棄物対策センター

センター長 石黒 忠

1. 設立

平成 12 年 8 月 19 日から 20 日にかけて本埜村の千葉県休養ホーム「もとの荘」にて開催された当協議会の環境カウンセラー夏季研修会で、廃棄物対策、省エネルギー、環境教育、環境アセスメントの 4 テーマについて研修が実施され、参加者の半数近くが廃棄物対策のテーマに加わり、EC 千葉で取組みをしようとのまとめを行なった。

このことから、EC 千葉に資源循環型社会の形成をめざすことを目的とした廃棄物対策センターを設立することが平成 13 年 2 月 11 日の定時総会で承認され、大山長七郎センター長を中心に活動を開始した。

2. 活動内容

(1) 設立当初から、大山前センター長を主体として廃棄物対策の広報を実施してきた。詳細は本記念号の「廃棄物対策センター活動を振り返って」(大山氏)を参照されたい。

(2) 平成 17 年度からは、新たに「モッタイナイの心で廃棄物を見直そう」をテーマに環境学習を実施している。実績は平成 17 年度、平成 18 年度とも船橋北高で各 1 回。平成 19 年度は東京学館浦安高校 2 回、茂原高校で 1 回、平成 20 年度は東京学館浦安高校で 5・6 月の 2 回高校生を対象に実施した。平成 20 年度は 11 月にも東京学館浦安高校で実施。

3. 次のステップに向って

最近、再生紙への古紙含有率のごまかし、廃家電、ペットボトルの中国への大量輸出など、リサイクルに関する問題が多く発生している。この現象は、平成 12 年の循環型社会形成推進基本法制定以降進めてきた日本のリサイクルシステムに原因があると思う。次ステップとして、上記問題点も議論できるようメンバーを充実していきたい。



H13.3.26 大平興産(株)管理型最終処分場見学

環境学習センター

センター長 種本 利治

1. 発足

平成 15 年 3 月 29 日、当協議会の NPO 設立総会にて当センターを設置した。

2. 活動実績： (1) 自然観察会

平成 10 年「昭和の森自然探訪」に始まった「自然観察会」は事業部が担当して毎年の秋季研修会に自然観察会を組み込んだ。「川辺のウォーキング」(二重川)、「虫から環境を考える」(昭和の森)を実施、平成15年に環境学習センター設立を経て急速に自然観察会は進み始め、ホテルの里保全(鎌ヶ谷市)、野草園の保全(八千代市保品)、川の清掃作業(柏市大堀川)、森の手入れ(船橋市豊富どんぐりの森)など、初年度は北総地域における環境保全活動のリーダー(EC千葉会員)の指導で身近な自然を知り、人間の生活が及ぼした影響を知る環境学習を中心に実績を挙げていった。平成18年「尾瀬」「鮭遡上(栗山川)」、平成19年「筑波山」「上高地」、平成20年「シュロで地球温暖化を知る」(柏市)。平成20年10月には設立10周年記念行事として「十和田八幡平」を訪問した。

(2) 環境学習会への協力及び環境学習出前授業

環境学習は地球温暖化対策センターが先行的に実施していたが、環境学習センターが発足してからは当センターを中心に各センターが協力して行うようになった。テーマは温暖化防止、省エネルギー、廃棄物対策から始まり、水環境、大気環境、自然保護、エコライフ、食へと次第に整備拡充してきた。平成16年から平成20年までの実績は、各地の子ども環境学習会への出前講座が、(社)日本環境技術協会主催分を含めて8回で、約500人の受講者になる。学校への出前授業は、高校3校、中学1校で17回、延べ780人程度の生徒になる。平成18年度以降は毎年千葉県の助成金を得ている。

(3) その他の活動

平成16年7・8月には千葉県立中央博物館の親子向け体験型展示「水フェスティバル」に展示実験および子ども体験実験で参加した。また、環境学習実験装置を持って各地のイベントにEC千葉会員が参加するのが恒例となってきた。エコメッセちば、東金市、八千代市や千葉市民活動センターなどの常連になっている。

3. センター員(平成20年9月現在):41名

4. 次のステップに向けて

(1) 高校などでの環境学習の積極的展開

実績を多く積み広報活動に注力する。

学校側の意見を取入れる。

環境学習センター員のレベルアップを図る。

(2) 自然観察会:自然観察を継続し、EC千葉会員は生物多様性への関心を一段と高める。

(3) 環境学習センターの運営:オープン化、情報共有、全員参加型運営を心掛ける。

水環境対策センター

センター長 古畑 義正

1. 設立：平成 20 年 5 月に発足した EC 千葉 5 番目のセンターである。

2. 活動実績

当センターの前身は水環境研究会（設立平成 17 年）である。研究会では水環境問題に関する啓発活動を中心に活動してきた。その活動内容は、

- (1) エコメッセ等でのパネルによるデモンストレーションや分析、実験等
- (2) 高等学校の環境学習に参画し、水の大切さを訴える
- (3) 県との協働事業の提案 等である。

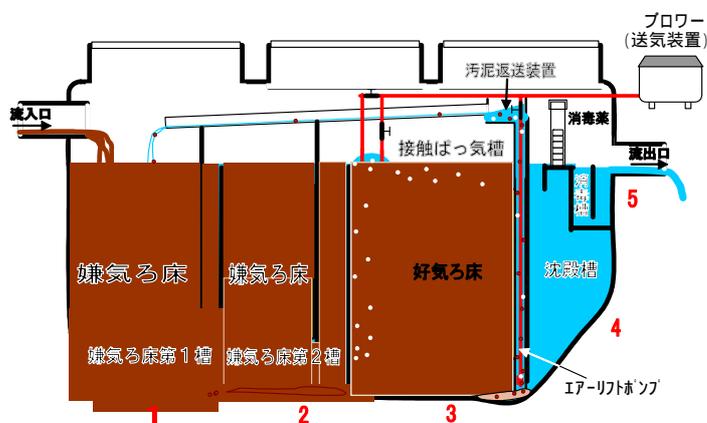
3. センター員：11 名

4. 次のステップへ向けての抱負

水環境研究会から水環境対策センターへと改組した当センターは研究会の方針を踏襲して今後、次のようにステップアップしていく。

- (1) 水環境汚染防止への認識を深めてもらうための「パネル展示」を中心とした啓発活動に引き続き取り組む。
- (2) 事業部、環境学習センターと協働し「水環境に関わる講演会の企画」「環境学習における水環境関連講師の派遣」等に積極的に対応する。
- (3) 多くの会員に水環境対策センターへの参加を呼びかける。

県と NPO との協働事業として「浄化槽使用者に対する水質保全に関する啓発教育の実施」を提案し、平成 20 年 9 月 10 日、平成 21 年度に実施する事業の候補として決定した旨の通知を県から受理した。



合併浄化槽の仕組み

外部団体との協働事業

平成 15 年度 県と NPO の協働事業

千葉県環境生活部 NPO 活動推進課及び環境政策課

國廣 隆紀

1. 事業名：地球温暖化防止活動推進員の養成・ブラッシュアップのための研修会
2. 事業実施期間：平成 15 年 8 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日
3. 事業目的

千葉県は温室効果ガスの排出削減をアクションプランとして推進しており、その中核的担い手として、平成 14 年度 261 名の地球温暖化防止活動推進員が委嘱を受けていた。地域における保全活動をより効果的に進めていくために地球温暖化防止活動推進員の養成・ブラッシュアップのための研修会を行い、その活動を活性化し、より充実したものとする事と自治体関係者及び地域の環境活動推進者との意識の共有化と市民への啓発の協力体制の強化を図ることを目的とした。

4. 事業内容

地球温暖化防止活動推進員、県内自治体の環境保全・地球温暖化対策関係者及び地域の環境活動推進者を対象に、第 1 地域：佐原会場、第 2 地域：柏会場、第 3 地域：袖ヶ浦会場にて、半日ずつ、延べ 3 日間（11 月～1 月）の 3 回シリーズの研修を実施した。

研修内容として、1) 地球温暖化問題、地球温暖化対策に関する講義、2) 環境家計簿の記入方法の実地指導、3) 省エネナビ及びワットメータの使い方の説明とワットメータの貸し出し、4) 家電製品及び自家用車の省エネに関する講義、5) 住宅の省エネ、ライフスタイルの変更に関する講義、6) 環境家計簿の記載、ワットメータの測定結果の実習研修、7) 地域での温暖化対策活動の進め方に関する講義、8) 地域での活動事例の報告、9) 今後の活動と取組みに関する討議などとし、24 名のスタッフの中から講師などを分担した。

5. 事業の成果

各地域で日によって参加者数が異なったが、第 1 地域は 39～57 名、第 2 地域は 46～50 名、第 3 地域は 62～65 名であった。3 回の研修期間において、環境家計簿及びワットメータを自宅に持ち帰り取り組んでもらったので現実的かつ効果的な研修となった。また参加者同士の活発な討論も行なわれ、地球温暖化対策について具体的に取組もうとの決意を持たれた参加者も現れた。

本年 5 月時点で県内の地球温暖化防止活動推進員は 469 名と 1.8 倍増となっており、本事業もいささかお役に立てたと思われ、このような事業をこれからも実施できればと思う。

平成 15 年度 東京電力（株）との協働事業

「地球温暖化対策学習会」および「地球環境フォーラム千葉 2004」の開催

辻川 毅

1. 事業名：地球温暖化対策学習会及び地球環境フォーラム千葉 2004 の開催
2. 事業期間：平成 15 年 10 月企画開始～平成 16 年 2 月フォーラム開催まで
3. 体制：総括責任者 土田理事長、プロジェクトリーダー辻川のもと地球温暖化対策センター員中心に、プロジェクトチームを作った。
4. 事業経緯：EC 千葉は協議会発足当時から、環境活動で地元リーディング企業である東京電力（株）（千葉支店、千葉火力発電所、本店環境部）とは協働でいくつかの活動を実施してきた。地球温暖化対策が大きな問題となってきた時期に当たる今回、その啓発事業を EC 千葉と東京電力の協働で実施することになった。
5. 事業内容：主催：EC 千葉、東京電力（株）

後援：千葉県、千葉市、千葉県地球温暖化防止活動推進センター

（1）地球温暖化対策学習会

Part. 1…地球温暖化対策について考える

開催日時／会場：平成 16 年 1 月 25 日 東京電力（株）千葉支店

参加者：県下の環境指導者約 50 名

内容：①地球温暖化対策への千葉市の取り組み、②家電・自動車・住宅の省エネルギー、③「エコワット」の活用、④ライフスタイル変更への取り組み、⑤地域における温暖化対策活動：講師－千葉市環境局、東京電力（株）、EC 千葉

Part. 2…火力発電所見学会

開催日時／会場：平成 16 年 2 月 4 日 東京電力（株）千葉火力発電所

参加者：環境活動団体の方および EC 千葉会員約 40 名

内容：東京電力（株）千葉火力発電所の発電システムと環境対策

（2）地球環境フォーラム千葉 2004…地球温暖化対策のため今何をすべきか

開催日時／会場：平成 16 年 2 月 27 日 千葉市生涯学習センター

参加者：千葉県の委託事業「地球温暖化防止活動推進員の養成・ブラッシュアップのための研修会」の受講者と県下の環境団体の方々約 200 名

内容：基調講演、事例発表及びパネルディスカッションを崎田裕子氏（基調講演等）はじめ千葉県環境財団、EC 千葉の専門家で実施した。

6. 事業成果：民間企業との本格的な協業を成功裏に実施でき、事業を通じて種々の事を学ぶことが出来た。

東京電力（株）には、この事業のほかに原子力発電所、TEPCO 館見学などの便宜を受けた。

平成 16 年度

環境省 関東地区環境対策調査官事務所との協働事業

土田 茂通

1. 事業名：佐原市の「子どもと一緒に環境学習」の会
2. 開催日：平成 16 年 12 月 11 日（土）
3. 事業体制：環境省 関東地区環境対策調査官事務所（現環境省 関東地方環境事務所）
主催及び千葉県、佐原市（現香取市）後援のこの事業に対し、EC 千葉は企画運営
および講師派遣を担当した。環境学習活動の草分けの事例として、EC 千葉の総力
を上げて対応した。
4. 事業経緯：環境省は、地域に対応した環境行政の強化を目指すこととなり、管轄の関
東地区事務所より、協力を要請された。
EC 千葉は、平成 15 年総会時、藤田忠宏が「やさしい燃料電池」が簡単な実験を伴
って講演を行なっている。また平成 16 年 12 月 7 日、千葉県総合教育センター主催
の自然科学公開講演会において、そのポスターセッションに燃料電池実験セットを
持ち込んで展示するなど、環境学習活動に注力しはじめた時期であった。
5. 事業内容
 - (1) 副題「みんなで進めよう地球温暖化対策！」
 - ① 二酸化炭素について知ろう
 - ② 電気の節約を進めよう
 - ③ ごみの削減に取り組もうの 3 テーマについて実験を行いながら説明を行った。対象は小学校 4, 5, 6 年生と
するが保護者の同伴、中高生も歓迎とした。
3 つの会場で講義と実験を行い、参加者は 2 班に分かれ、テーマ①と②をそれぞれ体
験し、テーマ③は一斉参加とした。
 - (2) ① 子ども向けのテキスト（全 12 ページ）作成
② 実験装置の作成
二酸化炭素：CO₂ 濃度測定器、CO₂ 重さの実験など。
電気の節約：蛍光灯と白熱灯の省エネ比較実験器具
ごみの削減では、各種ごみの実物展示など。
6. 事業の成果
EC 千葉として、環境学習活動のノウハウを得ることが出来た。以後、県立中央博物
館の企画展「水展」のフェスティバルへの出展、千葉市友の会の「夏休み 親子の
環境学習会」、県立船橋北高校の 8 科目一斉授業など、環境学習事業へとつながって
いくことが出来た。

平成 17 年度 県との協働事業

千葉県環境生活部 NPO 活動推進課 / 環境政策課・資源循環推進課

二宮 恵

1. 事業名：中小企業向け環境経営システム「エコアクション 21」の普及事業
2. 事業費 1,000,000 円
3. 事業期間：平成 17 年 9 月 22 日～平成 18 年 3 月 31 日
4. 担当：総括 土田理事長、リーダー 國廣副理事長以下 32 名の協議会会員でプロジェクトを編成

5. 事業経緯及び目的：

平成 16 年 4 月に環境省から「エコアクション 21 環境経営システム・環境活動レポートガイドライン」がリニューアル発行された。一方、地域事務局として（財）千葉県環境財団が認定され体制も整備されてきた。環境カウンセラーはエコアクション 21 の普及を義務付けられているので正に県との協働事業として最適の項目であった。

県内の中小事業者を対象に、ISO14001 と比較して容易に取り組める環境経営システム、エコアクション 21 の認証・登録制度について、各地域のネットワークと連携して普及啓発を行うことにより、環境経営への取り組みを促進する。

県との協働事業として行うことで、エコアクション 21 の県内での普及を促進し、特に中小事業者の環境経営への取り組みを支援する。

6. 事業内容：「エコアクション 21」普及セミナーの実施

(1) 日程と会場

- 平成 17 年 12 月 2 日 松戸市勤労会館
- 平成 17 年 12 月 14 日 市川市教育会館
- 平成 18 年 1 月 20 日 佐原市中央公民館
- 平成 18 年 1 月 27 日 君津市地域情報センター

(2) セミナーの内容(4 会場とも同じ。事例紹介は会場ごとに地元で縁のある企業に依頼)

1. 環境問題の現状と事業者の役割
2. エコアクション 21 の取り組みとそのメリット
3. 事例紹介の発表 2 事業所
4. エコアクション 21 の認証・登録の手続きとそのポイント
5. 個別相談

7. 事業の成果

- (1) 4 会場で総勢 242 名の参加があった。普及啓発の第 1 歩として十分な効果が認められた。「アンケート」に 81 名から回答があった。個別相談が 6 件あった。
- (2) エコアクション 21 普及セミナーのモデルができ、その後のセミナーで活用している。
- (3) 千葉県でもエコアクション 21 の取組事業者が増加している。

平成 18 年度 千葉県 NPO パワーアップ補助金事業

千葉県環境生活部 NPO 活動推進課

戸村 泰

1. 事業名：高等学校における環境学習カリキュラムのパワーアップ
2. 事業費：680,371 円(内県補助金 302,510 円)
3. 事業期間：平成 18 年 7 月 24 日～平成 19 年 2 月 28 日
4. 体制：総括責任者 土田理事長、リーダー戸村、以下 25 名の高校環境学習プロジェクトチームを編成
5. 事業経緯：当協議会初の事業として、平成 17 年 10 月に千葉県立船橋北高等学校から、同校 3 年生 180 人に対する総合学習（環境）の時間での環境学習の企画・実施の依頼を受け実施した。18 年度にも再度、授業実施の依頼があり、この機会に、高校向けの環境学習プログラム（学習テキスト、実験・デモンストレーション器具、授業の組み立て等）を整備し、当協議会会員の講師で授業を担当する。さらに、このプログラムを広く県立高校に PR することとし、NPO 活動推進課に事業を申請した。

6. 事業内容

- (1) 県立船橋北高校、総合学習(環境)、3 年生 188 人、50 分+50 分、8 クラス並行授業を実施した。そのため、事前に学習プログラムの改良・整備した。

8 クラスのテーマと授業のねらい、講師担当者は下記のとおり。

- 1) 燃料電池「燃料電池を自分で作って理解しよう」(服部・藤田)
- 2) 省エネルギー「加速させよう！省エネルギーの取り組み」(林・種本)
- 3) 太陽光発電「太陽光発電で地球を救う」(小関・野口(康))
- 4) 廃棄物と不法投棄「「モッタイナイ」の心で廃棄物を見直そう」(大山・石黒)
- 5) バイオマスの活用「牛糞で自動車が走るってホント？」(阿部・鹿嶋)
- 6) 水と測定「君は分析者！」(長内・長谷川・久保田)
- 7) 水環境「命をはぐくむ水！」(古畑・倉田・佐藤(素))
- 8) 自然保護の大切さ「身近な自然環境を知る」(鈴木(恵)、山口)

- (2) 新しい 2 つのテーマの学習プログラムを完成させた。

- 1) 自動車の省エネルギー「自動車を対象としてエネルギーの基礎を学ぶ」(服部)
- 2) 食と環境「食と温暖化の意外な関係」(小野)

- (3) 新しく実験教材を作製した。：「照明の省エネ比較実験」「人力発電機と照明電力」(野口(康)、平間)

7. 事業の成果

2 年続けて実施した船橋北高等学校での授業により、学校との連携の難しさや生徒に興味持たせる授業の仕方などを学んだ。又、実験教材を充実させ得た。

平成 19 年度 千葉県 NPO パワーアップ補助金事業
千葉県環境生活部 NPO 活動推進課

種本 利治

1. 事業名：高校のニーズと特性にマッチさせた環境学習プログラムづくりと
それにもとづく環境学習授業の実施
2. 事業費：743,800 円（内県補助金 371,900 円）
3. 事業期間：平成 19 年 7 月 20 日～平成 20 年 2 月 29 日
4. 体制：総括責任者を理事長とし、プロジェクトリーダーを環境学習センター長とする
25 名の NPO パワーアッププロジェクトを環境学習センター内に編成した。
プロジェクトメンバーは最終的に 30 人になった。
5. 事業経緯：平成 18 年度の NPO パワーアップ補助金事業に引き続き、平成 19 年度も
採択された。平成 19 年度は、前年度の事業成果を発展させ、各高校のニーズと
それぞれの特性に適合させた環境学習プログラムを開発し、それにもとづく環境
学習授業を県内の多くの高校で実施することを目的とした。
6. 事業内容
 - (1) 高校出前授業
 - 1) 千葉県立茂原高校 環境科学特別授業 3 年生 1 クラス 11 人
1 科目当り 2 回、1 回当り 50 分の授業を合計 3 科目 6 回行った。
 - 2) 東京学館浦安高校 総合学習「エコライフ」 1 年生 2 クラス 合計 58 人
1 科目当り 1 回、1 回当り 50 分+50 分の授業を各クラス 1 回行った。
 - (2) 教材の拡充・整備
 - 1) 高校向けの既存教材を 6 科目改訂、新規に 5 科目作成して、合計 15 科目の教材を
整備した。
 - 2) 過去に利用実績のある子ども向けテキストを 3 科目整備した。
 - (3) 広報活動
 - 1) NPO 法人子ども劇場千葉県センター主催の「NPO による小中高校向けに開発し
た総合的な学習の時間プログラムメッセ」に参加した。
 - 2) 高校向けの広報資料を整備して EC 千葉のホームページに載せた。この資料を持っ
て、プロジェクトのメンバーが手分けして県下の 12 高校、1 中学校を訪問して説
明した。他に 2 高校について、電話及び広報資料の送付による PR を行った。
 - 3) 各種イベントに環境学習ポスターおよび実験教材などを出展した。

平成 20 年度 千葉県委託業務

千葉県環境生活部環境政策課

種本 利治

1. 事業名：NPO 及び事業者による環境学習地域教材作成事業
2. 事業費：990,000 円（内県補助金 990,000 円）
3. 事業予定期間：平成 20 年 7 月 28 日～平成 21 年 3 月 31 日
4. 体制：総括責任者を理事長とし、プロジェクトリーダーを環境学習センター長として 30 名の地域教材作成プロジェクトを環境学習センター内に編成した。

5. 事業経緯：

この事業は、千葉県環境生活部環境政策課が環境学習基本方針推進事業として平成 20 年度に新規に開始したものである。事業目的に、「環境問題を身近なものとして考え、自ら解決する人を育てるため、それぞれの地域に関連のある環境学習教材を作成し県民に提供する。各地域における環境問題に関する専門的な知識とノウハウを持った NPO 及び事業者に教材の作成とその配布を委託する。」とある。この考え方は、環境学習を広めるために有効な方法と思われたので、我々も協力したいと考えて応募し、採択された。

6. 事業内容

(1) 地域教材の作成：

高校向けに新規の地域教材を 2 科目以上、既存の教材に地域環境特性をさらに盛り込んだ改訂版を 5 科目以上、合計 7 科目以上の地域教材作成を目標にしている。一つの科目で標準的な地域教材を作成しておけば、別の地域に対しても環境特性を入れ替えることにより、教材の適用地域の拡大が図りやすいと思われる。

(2) 地域教材の活用と評価：

作成した地域教材は、実際に授業で使って先生に評価して貰う必要がある。今年度の出前授業が計画されている高校では、その予定で学校と相談している。学校で授業が行われない地域教材については、その地域の高校教諭に教材を見て頂いて評価をお願いする予定である。

(3) 広報活動

- 1) 環境政策課では、県下の各市町村に地域教材を紹介することを計画しているので、教材提供面で我々も協力する。
- 2) 例年のことだが、プロジェクトのメンバーが手分けして県下の高校などを訪問して、広報活動を行う予定である。また、各種イベントに環境学習ポスター、地域教材、実験教材などを出展する。

ECU との関わり

ECU (NPO 法人環境カウンセラー全国連合会) と EC 千葉の動き

土田 茂通

平成 10 年 5 月から関東地区の環境カウンセラー協議会の会合として環境カウンセラー関東連絡会が開催され、EC 千葉からは小角、村上、有馬、田中が情報交換などで参加していた。平成 13 年 9 月に全国的な環境カウンセラー全国連合会 (ECU) に発展し、村上、田中、國廣が参画し活動を続けた。平成 15 年 10 月、それまでは任意団体であったが「特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会」(ECU を継称) の認証取得を行った。その法人化には國廣が多大な協力を行った。ECU の初代理事長の先崎武氏を中心に運営が始まり、EC 千葉からは土田、國廣が理事に就任して運営に参加した。

環境省が環境カウンセラー(事業者部門)に期待する新 EA21 の普及や中央事務局として推進を ECU の事業にすべく、委員会を設置して研究、折衝等を行った。最終的には IGES が中央事務局になり、各協議会が各県で活動することになり、ECU の事業としては、セキスイプロジェクトなど大きな活動が行われた。

次に ECU が事業の柱とした環境教育・環境学習の指導者養成があった。平成 14 年度に「ECU / 環境教育指導者養成セミナー」を地球環境基金の助成を受けて、テキストづくり、セミナー開催を全国に広げていった。そのためにプロジェクトチームを立ち上げ、EC 千葉より田中、倉田が参画した。スタートの年、平成 14 年は全国の 5 会場でセミナーを開催、2 番目として 12 月 23 日に千葉市生涯学習センターで、80 名の参加を得て実施した。この千葉での開催は EC 千葉の事業部がセミナー企画運営を受け持ち、土田、倉田、松山、林、戸村の協力の下に、予定通りに成果あるセミナーを成功裡に終えることが出来た。ECU は 5 年間の地球環境基金の助成金を受けて全国に 17 箇所で開催し参加者は 1355 名に及んだ。この実績で平成 19 年 6 月に環境教育推進法の環境教育事業を環境大臣より指定を受け登録され、環境教育指導者養成認定事業を開始した。

EC 千葉から ECU の運営に関わった役員は下記の通りである。

平成 13 年	村上利子、田中 茂、國廣隆紀
平成 14 年	村上利子、土田茂通、國廣隆紀
平成 15 年	土田茂通、國廣隆紀
平成 16 年	藤田忠宏、小角 浩、本間 格
平成 17 年	戸村 泰、小角 浩、本間 格
平成 18 年	戸村 泰、小角 浩、本間 格
平成 19 年	土田茂通、小角 浩、本間 格
平成 20 年	土田茂通、小角 浩、本間 格

各地域における活動

東 金 市

アースセレブレーション今昔

林 正 徳

東金アースセレブレーションは現在では、「九十九里 ISO ネットワーク協議会 ISO 取得の企業」と「ときがねウォッチングの会」(会長猪坂玲子 EC 千葉会員)等の市民団体主催の環境イベントである

内容は「講演会」、東金市を中心とする近隣市町村小中学生の「環境ポスターコンクール」・各環境団体、各企業の活動展示等々から構成されており、こどもを中心に一般市民が参加して、東金市文化会館を一日フルに使い、楽しく環境問題についての認識を深める、にぎやかなお祭りとなっている。

開催日が夏から、冬に変わったり、主催者が当初の東金市から、各企業や市民団体に変わったり多少の変化あったが、関係者の並々ならぬご努力により、元気に続けている嬉しい市民の行事である。

当協議会は、九十九里 ISO ネットワーク協議会の構成員として、要請に応じ展示説明のブースを設け、平成 13 年度から連続して参加している。

展示内容は、それぞれの年度の全体テーマに従って毎年実績のある項目を選び、3～5 名程度の会員が参加して、イベントを盛り上げるべく頑張ってきた。

近年は、東金市在住小野氏の斬新な企画、更には近隣山武市の小関氏のソーラーカー、同じく山武市の久保田氏、また東金までご自慢のバイオガスターに乗って来られる阿部氏の積極的参加を得て当協議会のブースは年々存在感を増している。

九十九里は「遠い」と感じておられる方も多いかと思うが、東金は千葉市の隣である。次回のアースセレブレーションには顔を出して、元気で活動している会員の姿をぜひ見て見て頂きたいと思う。



アースセレブレーション

H16.6.12

袖ヶ浦市

國廣 隆紀

1. イベント名：暮らしと環境を考える in 袖ヶ浦
2. イベント参加期間：平成 14 年 6 月～平成 20 年 6 月
3. 主催：袖ヶ浦市（環境経済部環境保全課）
4. イベントの目的：

袖ヶ浦市は、神奈川県と千葉県を結ぶアクアラインの千葉県側の橋の袂から房総半島中部に広がる人口 6 万人のまちである。臨海部は京葉工業地帯の一翼であり、内陸は緑豊かな田園地帯、まさに日本の縮図のような活気のあるまちと言っても過言ではない。

袖ヶ浦市は、1991 年(平成 3 年)に「環境保全都市宣言」をしたことに伴い、6 月を「行政、市民及び事業所が一体となり、自らの手で豊かな自然環境を保全し、快適な生活環境を創造するため、暮らしと環境を考える月」とし、以後毎年 6 月に、環境イベントとして「暮らしと環境を考える in 袖ヶ浦」を開催している。

5. イベントの内容と出展内容：

このイベントは、市民会館を会場（時には内陸部の公民館を会場とすることもある）とし、環境関連の展示、実地体験、資源回収・リユース促進などを行なっている。時にはシンポジウムや講演会も開催される。毎年、15～20 団体が出展などで参加し、市民はもちろん近隣の市からの参加者もあり 1200～1500 名（前記、公民館の場合は 500 名）もの来場がある。EC 千葉では、イベントの趣旨に賛同して平成 13 年 6 月の第 11 回から毎年出展を行っており、その出展内容は次の通りである。

第 11 回 平成 13 年：EC 千葉の PR と省エネナビの紹介

第 12 回 平成 14 年：EC 千葉の PR、省エネの啓発、身の回りの水質

第 13 回 平成 15 年：環境省の地球温暖化対策のモデル事業の紹介

第 14 回 平成 16 年：そでがうら地球温暖化対策地域協議会での活動報告

第 15 回 平成 17 年：地球温暖化対策、エコクッキングの薦め

第 16 回 平成 18 年：エコドライブの薦め（於 平川公民館）

第 17 回 平成 19 年：エコドライブの薦め

第 18 回 平成 20 年：地球温暖化対策

6. 成果：どの出展でも興味を持たれる方が多く、これからも啓発を続けたい。



H14.6.15 暮らしと環境を考える in 袖ヶ浦

鎌ヶ谷市

鎌ヶ谷市民環境展

倉田 智子

環境問題に包含されるものは非常に多く、大は国家戦略が求められる地球環境に始まり、日常生活と切り離せない水や大気や廃棄物、エコクッキング、レジ袋持参運動などがある。消費者に対応すれば大方の環境問題はクリアできるようだ。鎌ヶ谷市では消費生活展は長らく開催されている。環境問題を扱ってもその名称は変わらず、内容にいたっては商工振興の意味合いもある。間口が広い環境に、従来までの対応ではいかかと、市が主体の環境展の開催を求めてきたが、実現しなかった。

そこで地域の環境保全活動紹介のほか、広域で活動する団体紹介を試みて、第一回を平成 16 年 6 月の環境月間に開催、市役所ロビーで 11 日間の展示のほか、オープニングにワークショップを行なった。地域から自然の保全 4 団体と、広域には EC 千葉を筆頭に 4 団体が参加した。

EC 千葉は廃棄物対策センター協力の下「産業廃棄物と暮らしのゴミ」を展示した。膨大な展示物は圧巻であり、感想用ノートには分別についての市民の思いが綴られていた。大山・本間・林・大西・福井各氏のご協力をいただいた。廃棄物については市内の消費者団体から、分別の実際をデモンストレーションしたい意向が示されたので、次年度は控えることとした。

第 2 回にあたる平成 17 年は 7 日間の展示とワークショップで、テーマを「もったいないを広めよう」とした。市民からの献品によるエコバザーは好評であった。EC 千葉は鎌ヶ谷市のレジ袋削減施策に呼応してマイバッグ(河井さん作成)展示のほか、大西さんから作り方を提供いただき、また買い物袋を持参するとどのくらい化石燃料が節減できるかを表にして掲げた。

平成 18 年度は 6 日間開催。EC 千葉は前年度の化石燃料節減パネルのほか「ふるしき」でレジ袋削減を PR した。展示のみでなく、どのように包むかを体験したいという感想があった。

19 年度は会場を鎌ヶ谷市生涯学習推進センターに移した。ワークショップには大西さんを講師に「不要な傘地で作るマイバッグ」とし、当日の完成品と併せてテキストを展示、さらに環境学習センターのパネルを掲げた。種本さんは会場の様子を見に来てくださった。大西さんのプログラムはこの年、EC 千葉環境学習センターの教材になっている。

この 3 年間、主体は市民といいながら鎌ヶ谷市環境課からのバックアップもかなりいただいた。平成 20 年度、鎌ヶ谷市は「環境市民会議」の組織をもとに環境展を計画した。本来ならば、率先して参加するところであるが、年度途中で、しかも今年は大きな計画を多数抱えていたため、2 日間の時間が取れず、主宰する会は無論のこと、EC 千葉のものも出展が出来なかった。申し訳ない思いもあるが、目的は達せられたと思うので、悔いはない。

EC 千葉が大々的に関わる地域活動でなく、内容を掲載するのもはばかられるような、ささやかな試みである。EC が自治体に一人しかいない所での活動の参考になれば、ということと、EC 仲間が熱心に助けてくださったということから記録に至ったものである。

白 井 市

白井市環境フォーラム

辻川 毅

北総白井地域にはすばらしい環境と資源がある。この資源を保全し、将来に継承するため、平成 14 年 3 月に「白井市環境基本計画」が策定された。一方、白井市は、環境の国際規格「ISO14001」の認証を自治体では一早く取得した環境意識の大変高いところである。

この背景をベースとして、環境基本計画の内容を広く白井市民が周知、実践するために市民と白井市とが協働し環境イベントとして「白井市環境フォーラム」（市内の環境保全活動関係者、行政機関、教育機関等により構成、「白井市環境フォーラム実行委員会」を組織し、毎年開催している。

その基本には「自らの手で守ろうふるさと白井の自然と環境」を掲げ、白井市環境基本計画の実践目標をテーマとして平成 14 年度に第 1 回を開催した。

多くの市民、環境団体、環境省、千葉県、白井市教育委員会等による支援のもと、今日まで 6 回開催されている。フォーラムは、基調講演、市の環境施策の説明、市民の事例発表（市内小学校の参加が積極的）、パネルディスカッション、パネル展示会等である。EC 千葉は第 1 回からパネル展示会に参加し、協議会の活動内容の紹介と環境保全についての市民への啓発を継続して行なっている。

最新の活動として、この実行委員会は、地域の環境力をさらに高めるために、「地球温暖化対策地域協議会」へ発展を視野に入れて、官民一体で取り組んでいる。

なお、これまでのフォーラムは、次のテーマで開催された。

- | | | |
|-------|--------------|---------------------|
| 第 1 回 | 平成 15 年 2 月 | 地球温暖化を考える |
| 第 2 回 | 平成 15 年 6 月 | ゴミの減量に挑戦しよう、ごみは宝だ！ |
| 第 3 回 | 平成 16 年 10 月 | 地産地消がつくる白井市民の心のふれあい |
| 第 4 回 | 平成 17 年 12 月 | 地球温暖化防止と子どもたちの未来 |
| 第 5 回 | 平成 19 年 1 月 | しろいの自然再発見！ |
| 第 6 回 | 平成 20 年 2 月 | はじめよう！エコ生活 |



EC 千葉とエコメッセ

土田 茂通

「エコメッセ 2007in ちば」は平成 19 年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞した。その影響もあって、平成 20 年は出展者、入場者が例年より増えて、盛況であった。

EC 千葉がエコメッセに最初にかかわりを持ったのは、EC 千葉が設立した平成 10 年からで、エコメッセ協賛事業として 10 月に参加者 134 名を得て「企業環境セミナー」を開催（広報 3 号）したのが始まりで、平成 19 年まで 10 回に達した。まさにこの企業環境セミナーは EC 千葉の 10 周年と一緒に歩んできたといえる。

EC 千葉は平成 13 年に実行員会に参加したが、出展開始は平成 14 年からで、海浜幕張駅前で屋外展示の頃であった。平成 14 年に土田がプリウスを購入した際、トヨタのディーラーに交渉してプリウスの出展の了解をとりつけた。この年はエコメッセの存続が危機に陥った年で、チラシ・ポスターの作成費用をトヨタのディーラーに負担してもらい、プリウス等のハイブリット車の PR 等をチラシに反映させて、開催にこぎつけた年で、もっとも開催危機感の強い年であった。

当時屋外で開催されていた為に、展示用のテントを自前で準備するか又は 2 万円のレンタル料を必要とした。資金の余裕のない EC 千葉は、トヨタのディーラーのテント中で、ハイブリット車の走行実績を展示した（広報 17 号）。平成 15 年は屋外展示の最後の年になるが、前年と同様にし出費を避けるために、今度は(社)千葉県廃棄物協会のテントの一部を借りて、廃棄物の不法投棄防止と廃棄物リサイクル品の展示を行った（広報 21 号）。

平成 16 年、エコメッセは千葉県との協働事業として採択され、会場を幕張メッセの国際会議場に変更して開催され、今日まで継続されている。この年に現在の関東地方環境事務所（旧関東地区環境対策調査官事務所）にエコメッセへの出展を依頼し、了解を得た。それ以降、現在まで関東地方環境事務所の出展が続いている。

幕張メッセの国際会議場に会場を移してから、出展費用は低額になり、他の機関のブースの一部借用から開放され、自前のブースを持つことが出来るようになった。以降は関東地方環境事務所の出展ブースと隣りあわせになり、EC 千葉の出展内容もだんだん充実し、立ち寄る入場者も増えてきている。土田は平成 14 年から 7 年間、エコメッセの企画運営部に所属し、部会長を平成 16 年から 4 年間担当した。



H14.11.9 エコメッセちば 2003

思い出（あんなこと、こんなこと あったでしょう）

EC 千葉県協議会発足前後の思い出

小角 浩

当協議会結成の発端は平成 9 年 9 月、代々木のオリンピックセンターで開催された第 1 回 EC 研修会に遡ります。偶々私が所属した分科会 10 名のうちに千葉県在住者が 5 名入っていました。当然のことながら分科会の意見交換でも地域別の組織化が話題となりました。代々木から戻り、早速県下からの研修会第 1 回出席者に連絡したところ、全員の賛同を得ることが出来、世話人会をスタートさせることができました。

世話人会といっても初対面の方が多く、それまでの経歴も各人各様であり、話し合いを重ねた結果、少なくともスタート時点では組織化といっても、フレキシブルに緩やかな結合で臨むことにしました。

さらに何回かの会合を重ね大方のフレームが定まった 11 月初旬、県内居住・在勤の EC に協議会設立趣意書を送り、協議会設立に参加し、会の発展・充実を共に図ろう、と呼びかけたところ、当時、該当者 68 名中 49 名から参加回答とともに積極的な意見が寄せられました。運営委員を引き受けても宜しいと申し出てくれた方も加えた 12 名をもって発起人会とし、設立準備に取り掛かりました。

前略、退日の環境カウンセラー研修会ではお疲れ様でした。当日参加された、県内からの全ての方にお目にかかることは出来ませんでした。たまたま、お話しできた方々との間で、カウンセラーの活動を活性化させる為にも、何らかの形での組織化が必要であろうとのご意見を多く承りました。

つきましては、誠に窮乏ではありますが、当日同じグループに属し、千葉市の公民館長を歴任されている、田邊さんと相談し、とりあえず、今回の研修に参加された方々に呼び掛け、この問題を初め、今後のあり方などについて、意見交換の場としての準備会を、下記により設けたいと考えました。

突然の、一方的な呼び掛けで恐縮ですが、万障お繰り合わせの上、ご参集願ひ、なるべく多くの方々のご意見をもって、始動したいと存じますので宜しくお願い致します。

記

日時、平成 9 年 9 月 27 日（土）13 時より。

場所、千葉市

千葉市公民館

Phone

連絡先、田邊 Phone 043-272-4961（勤務先）

Fax 043-271-6994（＃）

小角 Phone 0438-63-1091（自宅）

Fax 0438-63-1091（＃）

50 名を超える人が集まれる会場探しも頭の痛い問題でしたが、東京電力千葉支店さんをお願いしたところ、快く理解を示して頂き、平成 10 年 2 月 8 日に同支店ホールで設立総会を開催できることになりました。

天候にも恵まれた当日の参加者は回答を上回る 56 名（委任状を含む）、設立発起人代表をお願いした有馬さんが議長役を勤め規約審議も一部修正で成立。設立時役員を選出・紹介に引き続き、初代代表として設立宣言をさせて頂きましたことも、面映い思い出の一つとなっています。

活動計画の承認後、懇親会となり、それぞれ自己紹介を行うとともに、今後の活動について諸々意見交換を行い、理解を深めました。

←打ち合わせ案内のハガキ

初年度において早速計画されたのが、3月末登録発表になる2期生への参加呼びかけと、第1回研修会の開催、及び広報誌の創刊でした。

3月末の平成9年度登録者発表を待って4月早々、県内該当者21名に入会要請をしたところ、14名が参加表明、総勢70名の協議会に成長しました。

5月24日、再度東電千葉支店会議室をお借りして、第1回研修会として、「大気・水質汚染物質の測定技術について」（辻川氏）、「次世代のごみ処理技術について」（板谷氏）の講演、質疑応答がなされ、引き続き2期生歓迎会を開催しました。

一方、広報部会は「広報・環境カウンセラーちば」の発刊に向けて会合を重ね、5月10日に創刊号発刊に漕ぎ着けました。

7月には、代表が別途(社)日本環境アセスメント協会で行っている野外研修のうち、隔年で行っている「尾瀬自然観察会」にメンバー及び関係者が今後の参考として参加しました。

7月末頃から(財)日本環境協会と連絡を取り、環境庁が全国展開を図っている「環境管理・監査推進事業」と、(財)千葉県環境財団の指導で「エコメッセちば実行委員会」が主催するイベントをジョイントさせ、参加イベントの一つとして当協議会が主体的に取り組む方向で調整を図りました。

幸い各方面の理解と協力が得られ、10月2日、幕張のSIIホールに134名の参加者を得て、「企業環境セミナー」を開催することが出来ました。

メンバーの廣川氏からISO14001の説明、続いて日立製作所・大石氏、大日本インキ化学工業・早川氏から認証取得の体験談、日環協の後藤氏から「環境活動評価プログラム」についての講演、さらに各講師に、会員の神藤・荒野両氏も加わり、会場からの質問に答えてのカウンセリングが行われました。

第2回研修会は11月29日、東電千葉支店で開催、12月2日にはエネルギー・廃棄物処理関連の工場見学会として[コンバインドサイクル発電・東電富津火力発電所、熱分解溶融炉「R21」・三井造船千葉事業所]を対象として行いました。

協議会の会計年度調整もあって、平成11年2月7日に再度、東電会議室で初年度の報告、2年度の計画を中心議題として総会を開催、引き続き研修会として[「環境共生型戸建住宅によるエコロジカル・ライフスタイルの実験」(高木氏)、「わが国における自然保護の歩み」(小角)]の講演が行われました。

一方、平成10年春頃から各県域での組織化が動き出したので、関東圏の連絡会結成について埼玉と連絡し合い、3月28日の神奈川発会式に併せ、関東トップスタートの茨城と共に駆けつけ、話し合いの場を持ちました。

5月14日、東京・青山[環境パートナーシップ]に武蔵野(東京)を加えた組織化済みの団体と、検討中の栃木、群馬、東京、山梨、長野の有志が会合し、以来、詰めを重ねた結果、11年1月29日、栃木、群馬、東京城南、山梨も創立メンバーとなり、初年度幹事団体に当協議会が当たることとして、[環境カウンセラー関東連絡会]が発足するに至りました。

NPO 法人化の経緯

國廣 隆紀

環境カウンセラー登録制度では、環境カウンセラーの活動を「市民や NGO、事業者などの環境保全活動に対する助言など（環境コンサルティング）を行なうだけでなく、自ら積極的に環境保全活動を行ったり、市民、事業者、行政の間のパートナーシップ作りを行なうなど」としています。このことは環境カウンセラー個人への期待、役割は明確であります。しかし、平成 10 年 2 月、県内の環境カウンセラーのうちの有志 56 名が、心を一つにして地域の環境保全活動の推進に貢献することを目的に任意団体として、「環境カウンセラー千葉県協議会」を発足させました。以後、活発な活動を推進していましたが、平成 14 年に入って県内でも盛んになりつつある県の NPO 活動支援事業などに応募するにあたり、責任主体が不明確では好ましくないとの認識のもとに、9 月の運営委員会では NPO 法人に関する勉強会が行われ、法人化を行なうことが決定され、その準備を進めることになりました。

まずは特定非営利活動促進法（NPO 法）への順法について検討し、次のような点に留意しました。1）収益事業はあってもよいが、営利を目的にしない特定非営利活動であることについてはほとんど問題がない。2）社員の資格の得喪に不当な条件をつけないことについては、環境カウンセラーでない会員がその時点で 120 名の会員中 10 名おられ存続していただくことで問題がない。3）役員のうち報酬を受ける者が 3 分の 1 以下であることも全く問題がない。4）役員（理事）にそれぞれ代表権がある点については、NPO の細則を定め役職（責任権限）を明確にすることで対応する。5）法人の事務所を開設しなければならないが、経費節減のために従来どおり会員個人の自宅を借りて必要な書類などを常備することで対応する。このような事項を明確にした定款及び細則を所轄庁の県環境生活部の指導のもとに作成しました。

こうして、平成 15 年 3 月に従来の「環境カウンセラー千葉県協議会」の平成 15 年度定時総会を開催し、任意団体の協議会組織を解散し法人化することとし、現在資産を新法人に継承することの承認を得ました。さらに引き続いて「特定非営利活動法人環境カウンセラー千葉県協議会」の設立総会を開催して、法人格取得、定款、事業計画、収支予算などが承認され、役員選出が行われました。これを受けて、4 月、千葉県知事に対し NPO 設立認証申請を行い、7 月に晴れてその認証登録をしていただきました。

こうした経緯で設立した NPO は次第に県内での知名度も上がりつつありますが、法人であることの社会的責任を認識しつつ、関係各位のご指導、ご協力のもとにこれからも発展していきたいと思っております。

環境マネジメントシステム支援センター設立の頃

林 正 徳

平成 11 年 4 月有志が集まって、ISO14001 の認証取得の支援センターを県協議会内に結成する目的で、初めての会合を持ちました。14 名の集まりだったと記憶しています。

その後毎月 1 回のペースで熱っぽく議論する会合を重ねていき、参加者の数も段々増えていきました。そのうちに、運営についての会議に併せてお互いの実力向上のために研修会を持つということになり、広川さんのリードで、テキストを選択し各自順番に当番となってテキストの各節毎に論題を提供する、いわゆる「ゼミ形式」の研修会がスタートしました。テキストの内容は実務経験を通して理解するものであり、ベテランの審査経験者から具体的な事例提供があり、それでいて素人っぽい意見も抵抗なく出せる自由な雰囲気の中で、社会人 OB 集団としてはユニークな存在になっていきました。毎月、EC 千葉県協議会理事会の開催日の午前中、全員参加の運営会議と合わせて、2 本立てで実施する方式が、その頃すでに実現していた様に記憶しています。

そして協議会最初のプロジェクトセンターとして平成 12 年 2 月、「環境マネジメントシステム支援センター」として正式にスタートすることになりました。すでに平成 10 年 10 月に最初の企業環境セミナーが開催されており、これを新設のセンターの PR イベントとして、十分に活用する体制が出来上がっていたことも大変ありがたかったとおもいます。

さてセンターがスタートしても、仕事の申し込みがあるのかなと心配していましたが、当時の事務局長、籠谷さんのお骨折りで環境財団の認証取得のコンサルタント依頼があり、会計担当の鈴木茂夫さん（後の協議会総務部長）にセンターとしての初仕事を頼み、めでたく認証取得のお手伝いをする事が出来ました。最初の依頼があった事を電話で村上会長に報告したところ、大変喜んでくださった上で「実施にあたっての細かいご注意」を頂き、協議会全体の当センターに対する期待の大きさをヒシヒシと感じました。昨日の事のようにはっきり覚えています。その後セミナーを聞いて是非お願いをしたいという申し込みや、九十九里 ISO ネットワーク協議会を通じての申し込み等など、除々に取り扱が増えてくる段階で平成 14 年初頭、現二宮センター長へバトンタッチしました。その後の EMS 支援センターの発展ぶりは皆さんご存知の通りです。

研修会で腕を磨いたメンバーが、受審企業側から高い評価を頂いたり、その後の各方面での活躍の話聞くにつけても、今も活発に続いている研修会を創り、育ててくださった諸先輩に改めて感謝の意を表したいと思います。又 10 年間続いてきた「企業環境セミナー」を中核とする各種セミナーも、時代の要請に対応して変革をとげながら、当センターの発展を支えて来たことも間違いありません。

共に学び自己変革をとげながら前進する集団「EMS 支援センター」の今後の発展は大いに期待できると確信しています。私としましては、この様な集団の運営に短時間でもかわりを持つことができたことを大変嬉しく思っています。

企業環境セミナー発足のあれこれ

有馬 富穂

当会発足の年、平成 10 年は「エコメッセちば」の 3 回目に当たっていた。これは県の環境政策のビッグイベントであり、千葉県環境財団が事務局であった。当財団の籠谷さん（EC）の計らいで、「エコメッセちば」実行委員会のメンバーに小角さんと私が組み込まれた。実行委員会では多数の団体の代表が集まる大会議が数回開催された。



企業環境セミナー会場

環境カウンセラー千葉県協議会の認知度を上げる絶好の機会と考えていたところ、「企業環境セミナー」（企業が参加するイベントとして）の企画を千葉商工会議所と当会が受持つことになった。丁度タイミングよく（財）日本環境協会から「環境管理・監査普及推進事業」へ参加の呼びかけがあり、早速これに手を挙げ、県や商工会議所からも了解を得た。補助金 13 万円は初収入で、当会運営の大きな支えになったと思う。会場はセイコーインスツルメンツビル S II ホール（幕張）を無料でお借りでき補助金の会場費が浮いたわけである。

セミナーの内容は、トップは広川さんの「環境 ISO の概要と認証取得について」と題しての講演。当時、環境 ISO の全国認証取得件数は約 1000 件、千葉県は約 35 件であり、時宜を得たテーマであった。第 2 講演は「環境活動評価プログラムについて」（財）日本環境協会の後藤敏彦氏が演じられた。当時はこの評価プログラムに我々 EC がどのように関わられるか戸惑っていたが、これがエコアクション 21 認証制度に発展し、我々 EC が関わるようになるとは想像できなかった。事例発表は㈱日立製作所電子デバイス事業部と大日本インキ化学工業㈱の 2 社にお願いした。

☆ 主催：環境庁、千葉県、千葉商工会議所、環境カウンセラー千葉県協議会

☆ 後援：エコメッセちば 1998 実行委員会、千葉銀行、京葉銀行、千葉興業銀行
受講料が 1500 円であったが、134 名の参加者を得た。

翌年の 2 回目の「企業環境セミナー」は前年の実績を買われ、企画は順調であった。県から主催は環境カウンセラー千葉県協議会、千葉商工会議所と（EC を前面に出すよう）指導を受けた。また、事例発表について、自治体として全国初の認証取得した白井町を強く推された。（事例発表はシャープ㈱、㈱増田製作所、白井町）
千葉商工会議所の平山武彦氏とは懇意にさせて頂き、この関係が今日まで継続されているのは幸いである。受講料が 1000 円で、約 160 名の参加者を得た。補助金なしで、収支トントンであった。場所はシャープ幕張ビル・多目的ビルで、無料でお借りできた。液晶テレビや太陽光発電パネルで急成長する企業とお付き合いできたのは、ラッキーであった。

企業環境セミナーの変遷について

廣川 一男

1. 発足

ISO14001 は 1996 年(平成 8 年)9 月に発効されるや否や 11 月に JIS が発効された。この規格が難しくシステムを構築する場合コンサルタントの指導を受けており、構築されるシステムも、出版されている図書も大企業向けであった。そのため千葉県内の真面目に取り組む中小企業に対する環境マネジメントシステム支援センターを発足させた。その機能とどうお役に立てるかを知って頂くための講習会の開催企画をまず立案した。

2. 当初

幕張で千葉市主催の「エコメッセ千葉」が開催されていたのでそれに便乗することにして、千葉商工会議所やシャープの協力により、スタートできた。大きな綺麗な会議場であるのに、無料貸与の条件が商品展示場の見学のみであり、助かった。協議会内部では環境カウンセラーはボランティアであるという意見があり、有料はおかしいとか、何千枚も案内状を配布するのもおかしいとの発言があった。世間相場の数分の 1 であるから、地域にサービスしたことになることと、中小企業に最適なシステム構築を指導することなどのメリットを強調して漸く認めて頂いた経過がある。

3. 展開

規約類もできて体制ができ、相互開発の研修会を開催し始めた所、次々と依頼を受けて順調なスタートを始めた。セミナーの議題はもっぱら ISO の必要性と構築方法の解説であった。平成 15 年 4 月に「ISO

No	年	セミナーのテーマ名称
1	10	企業としての環境保全活動を考える
2	11	ISO14001 認証取得するために
3	12	ISO14001 認証取得と環境経営
4	13	ISO14001 認証取得と経営革新
5	14	中小企業の ISO 効率的認証取得
6	15	中小企業における ISO14001 の活用の仕方
7	16	中小企業の環境マネジメントシステムの構築
8	17	ISO14001 のゆくえ
9	18	環境マネジメントから経営マネジメントへの転換
10	19	環境マネジメントシステムでの中小企業の生き残り作戦

の負のスパイラル」に関するショッキングな 75 頁の報告書が公表された。聴講者のレポートも多いことから活用による経営改善に主題を転換した。当初 160 名程度が最近 50 名程度に減少しており、考えなければならない。

4. 発展

最近 ISO は経営に役立たないと言って返上されている。ISO17021 は審査を経営改善・革新に向けてパフォーマンスを改善する方向で、今年 9 月に完全に実施され、始められる。当セミナーはこの動きを感知してテーマを事前に変更し、リードを努めてきた。

エコアクション 21 に取り組むにあたって

二宮 恵

環境省は 1996 年 9 月にエコアクション 21 (EA21) 届出登録制度を発表し、普及させようとしたが、届出だけすれば登録されるので、偽物が横行し世の中で評価されず普及しませんでした。環境カウンセラー事業者部門の人は EA21 の普及活動を行うことを義務付けられているので、あまり内容の良くない EA21 の普及活動には逡巡していました。

2004 年に第 3 者が審査を行う認証・登録制度に生まれ変わって効果が上がるシステムとなりました。その時点で協議会では真剣に取り組むことにし、どのように対応するか議論しました。EA21 の全てを推進、管理するために(財)地球環境戦略研究機関持続性センター(IGES)が中央事務局として認定され、IGES が地域事務局、審査人の認定、事業者の認証・登録業務を行うことになりました。当協議会が自ら地域事務局に申請することも考えましたが、IGES の要求する業務の中で基本となる「必要な執務スペース、人員及び通信手段を確保する」ことすらままならぬ状況で地域事務局は諦めました。一方、千葉県環境財団が意欲を示し、当協議会は千葉県とも相談して千葉県環境財団と協定を結び協力することでスタートすることになりました。執務スペース、通信手段は財団が整備するとし、当協議会からは、

非常勤事務局員

ホームページの作成・管理

運営委員、判定委員

普及セミナーの開催など

で協力することになりました。

地域事務局(千葉県環境財団)には現在、非常勤事務局員を 1 名派遣し、ホームページの作成、管理も無償で行っています。3 名の運営委員(7 名中)と 7 名の判定委員(全員)をボランティアで出し、その他、EA21 普及セミナーも年間で数回共催しています。

地域事務局との関係は非常にうまく行っていると思っています。

千葉県は EA21 の認証取得事業者数が少なく、普及活動で苦戦が強いられています。

当初、審査人資格取得も誘い合って受験し、多くの方が合格しました(現在 EMS 支援センターだけで 24 名:千葉県 42 名/全国 748 名中)。審査人は普及活動、コンサル、審査で活躍しています。普及活動を幅広く行っている努力の割には EA21 に取り組む事業者が少なく、苦慮するところでもあります。一方、IGES からの地域事務局や審査人に対する要求はだんだんと厳しくなり、対応が難しくなっています。最終的には良いシステムの構築を目指しているのだと思いますが徐々にルールが複雑でややこしくなっています。

現在(2008.8.20) EA21 は千葉県で 65 社(全国 6,500 社)が認証・登録されています。EA21 の更なる発展を願うものであります。

廃棄物対策センターの活動を振り返って

大山 長七郎

平成 10 年 2 月 8 日、環境カウンセラー千葉県協議会（EC 千葉）の設立総会が開催されて以来、早や 10 年が経過しました。発足当初は広報部副部長を務めました。地域では EC 千葉の会員として会社での経験、実績から環境問題、特に廃棄物処理、リサイクル問題について地元自治体に協力してきました。平成 13 年 2 月 11 日の定時総会において、組織を強化し、特に環境問題の中で廃棄物対策を広報する必要から廃棄物対策センターを設置しセンター長として専念することになりました。各自治体での環境フェア、教育現場において、製作した展示パネル、サンプルを示して説明しています。また毎月開催される EC 千葉の会議の中で廃棄物処理問題に関する情報を提供、さらに広報紙にも問題点を投稿して広く PR してきました。

平成 16 年から年 2 回開催される（社）千葉県産業廃棄物協会主催の処理事業者セミナーに自主的に協力し千葉市内の青葉の森文化センターのロビーに産廃適正処理違反の新聞記事、不法投棄現場の写真の説明パネルを展示しました。この青葉の森文化センターのロビーでの自主展示は、次の「ちば県民だより」がきっかけでありました。それは全県民に配布される「ちば県民だより平成 14 年 3 月 5 日、3 月号」の堂本暁子 現千葉県知事の「このままでは、ちばの環境が危ない」という記事でした。千葉県として地球温暖化防止活動推進員制度を取り上げており、廃棄物対策センターとしては①廃棄物処理、リサイクル②廃棄物不法投棄防止③地球温暖化防止等を主体に推進していくことにしました。特に現在、力を入れているのは小、中、高校生を対象とした環境教育で、こどもの時から「もったいない」という思想をカウンセラーとしての経験、実績をもとに指導していくことが必要と考えています。千葉県は堂本知事の言葉を重く受け止め、産廃不法投棄ワースト県の汚名を消す必要があります。県内には約 400 万トン（平成 18 年 3 月末現在）が投棄されており、環境汚染を広げています。元通りに再生するには約 1,500 億円の支出が必要との試算があります。平成 20 年 3 月までの 8 年間の行政代執行は 20 件、7 億円が支出されました。

平成 19 年度より廃棄物対策センター長として石黒忠氏が就任しました。引き続き関係者の皆様のご指導、ご協力をお願い致します。



H19. 6.1～30 環境月間 四街道市役所ロビー



H19.10.11 産廃事業者セミナー会場の展示

環境学習センター設立のころ

林 正徳

環境学習センターは平成15年に、初代センター長を倉田、副部長は田中で発足しました。私は当時日本環境協会のこども環境相談員を務めていたので、軽い気持ちで参画しました。それまで実施してきた事業部の「自然観察会」を発展させ、「身近な自然を知り、人間の影響を考える」環境学習を中心に実績を挙げて行くことから始まりました。

最初は、活動フィールド持つ指導者の自然保護活動の実態を見学し説明を受け、参加者のレベルアップを行う手法がとられ、大変興味深く、足しげく参加したことを覚えています。それぞれ個性豊かな主張を背景にした運営で、私としては、新しい知己や観察眼を得て、大変有益だったことを思い出します。しかし、事業者部門からの新しい参加者が少なく、参加メンバー拡大の課題が生まれました。又実績のある個性派活動家に、EC千葉としてどんな支援が出来るかを、巾ひろく討議する必要があったのではと思いました。

さて、平成16年4月にセンター長にと声を掛けられ、ど素人の私が引き継ぐことになりました。ただ従来の路線を継承するほかに、各方面からのアドバイスもあり、事業者部門の会員の専門能力を環境学習に生かすことが出来ないかと考え、ユニークな実験を中心とする環境学習を実現することを考えました。

主要題材としては、藤田さんの「鉛筆の芯を利用した燃料電池の実験」を先ずとりあげました。この実験に他の機材も付け加え、一連の実験のカリキュラムを作り、これを中心にデモの機会をもち、平成16年12月の先生方の集まる千葉県総合教育センター主催の自然科学公開講演会・千葉県型環境教育の創造を目指して-NPOに学ぶ-の展示に燃料電池実験セットを持ち込んで積極的にシャシャリ出ていき展示説明を行いました。

平成17年3月にPRの甲斐あってか、船橋北高校から8クラス2時間の一斉総合環境授業10月実施について学校より相談されました。早速、理事長と環境学習センターの主要メンバーと協議の結果10科目の教案を作成、10月に3年生180人を対象に学校側に8科目の環境学習を提供することが出来ました。

この教案の中には、従来各種展示会等で実績のあるもの、ユニークな新提案、女性会員からの積極的提案も加えられ、EC千葉でなければ出来ないラインアップとして、まとめられるものを全て網羅した内容でした。

また、平成17年7月には県立中央博物館の企画展「水展」の特別メニューに燃料電池キットを持って4日間参加したのも、思い出深いものです。

平成18年にはエコツアー（自然観察会）が開始され、第1回尾瀬、第2回上高地といずれも盛況のうちに終えました。内容の充実した堂々たるエコツアーでした。

環境学習センターは現在、中高校の環境学習を大きな柱とし、エコツアーや多角的な自然観察会を加え、新センター長のもとに新たな展開が推進されており、今後更なる充実が期待できるものと確信しています。

自然観察会(県外宿泊編)を企画して

小角 浩

【自然とのふれあいは、人が自然の豊かな恵みを享受する基本的な行動であり、自然の大風景に感動したり、身近な自然に接して安らぎを覚えるなど、自然や人を大事にする豊かな心を育みます。

自然と触れ合う機会を増やすことは、人間が自然生態系の構成要素の一つであることを認識し、自然との共生への理解を深めることが可能となります。】

「自然とのふれあい」が行政用語として用いられる時代になっておよそ 20 年、自然観察のあり方も各分野でいろいろな試みが行われています。EC 千葉でも発足以来、県内を中心に何回か実施されて来ました。

偶々、私が二十数年来関与している JEAS の自然観察研修会に、当会の佐藤さんが友人の方々と共に特別参加されたのが機運となって、実施の方向で検討が加えられました。

都市生活者にとって、非日常的な大自然から、畏敬の念に似た感動を得られるのは朝夕の刻々と推移する光と影の変化にある、と信じていることから現地宿泊は欠かせないもの、と私は考えています。

初回は平成 18 年 7 月、[湿原の発達過程と植生]をテーマに尾瀬で実施。津田沼から貸し切りバスで往復、車内での解説は効率的、湿原植生開花最盛期の両日も好天に恵まれ、ご夫婦参加が多く東電小屋貸切利用ならではの親睦が図られました。

2 回目は翌年 9 月上高地、テーマは[山地崩壊と景観維持]。現地ビジターセンター集合、自然公園財団施設貸切利用。非利用期の大正池浚渫、梓川の近自然型河床・堰堤工事など景観維持のための人為と、「人為を加えず自然の推移に任せるべき」の意見が交差する現場を、快晴のもと共通の目で観察し、各人の感覚で思考する体験ができたことでしょう。

夕食後、自由姿勢の談話室で、暖炉の裸火を囲んでの歓談は参加者にとって印象深かったものと思われます。その席で話題となり、実施されたのが、本年 10 月の八幡平・十和田・八甲田。テーマは [北東北の火山地形と植生]。

巖鷲山(岩手山の古名)麓・盛岡起終点の貸し切りバス利用により、シラビソ(アオモリトドマツ)の生育下限を縫うように上下しながら、秋田駒ヶ岳から八甲田山に至る火山列の眺望、玉川・後生掛など後火山現象の観察(ⓂOwn Risk の基に)に加えて十和田湖・奥入瀬溪流・八甲田山麓ブナ林巡行は好天のもと、印象的でした。

参加された方々が今後、自然公園におけるビジターセンター等の有効活用を図りながら、科学的知見をベースとした自然とのふれあい・自然観察を進めるに当たって、ご自身の五感を臨機応変にフル作動させ、主体的に行い、その輪を一層広げられることが、EC 千葉の行う自然観察会の研修目的であると考えています。

ホームページについて

有馬 富穂

EC 千葉のホームページ (HP) には開設は 1999. 10. 4 と記録されている。当会発足から 2 年目であり、全国でも先陣を切ったものと思う。

Windows95、Windows98 が出て間もなくで、私自身も未熟のころであり Just Net の簡易ホームページ版を利用した。これは現在のブログに似た書き込み式のものであった。

レイアウトに制約があり、自由な画面を作ることは出来なかったが、まずまずの情報発信は出来たものと思う。

私は我流で、いろいろの HP を作成している。HP 作成ソフトは最初、フロントページを使ったが、余り自由度がないので、現在は HP ビルダーを使っている。



Just Net 時代の懐かしいHP

数年前に Just Net から現在のものに切り替えた。Web で環境カウンセラーを検索すると EC 千葉の HP が真先に表示されるのは嬉しいことである。

平成 17 年にエコアクション 21 地域事務局千葉県環境財団の HP を立ち上げた。これと EC 千葉の HP は相互リンクで結ばれ、環境財団との絆ができていていると思う。

私は情報部に所属するが、情報部の使命は情報収集、情報発信、情報交換であると思う。情報発信は HP と広報部の広報誌が役割を演じていると思うが、会員相互の情報交換は如何でしょうか。当会発足の当初は、FAX のやりとりで、非常に不便であった。会員の IT リテラシーが進み、メーリングリスト (ML) による通信が可能になってきた。現在、約 100 名が登録され、瞬時の情報伝達を享受できている。

ただ、数年前、ウイルス感染により ML を一時停止したことがあった。会員の皆様がウイルスに感染しない対策を講じるようお願いしたい。

最後にブログについて、HP の作成は特殊な技能を要し、更新するのも不便である。その点、ブログは誰でも簡単に利用できる。私は数個のブログを作成、管理している。日記を付けるような感覚で作れるので、皆さんにお勧めしたい。

EC 千葉設立時の思い出

佐藤 素子

1996年環境カウンセラー制度ができ、私の活動経験もお役に立つのではと登録させていただきました。登録後の初めての研修会で小角氏ほか多くの環境カウンセラーの方々に出会い、企業人、行政担当者、市民活動家が全く対等であることに深く感銘を受けました。そこには1+1+1が5にも6にもなりそうな予感がありました。多くの方が同じ思いをいだき、その場で千葉県在住者で環境カウンセラーのPRとともに、協働で環境活動を広める県単位の組織を作る話になりました。その経緯について小角さんが書かれていますが、あっという間に設立総会まで進んだと思います。

それぞれが積極的にできることを担当し、私も広報部長として広報紙を担当しました。柏市の室中さん、四街道市の大山さんが副部長、一般会員の中からも何人かの方がサポートを申し出てくださり、一緒に編集会議を八千代市の16号線沿いの八千代市郷土博物館で開いたことも懐かしい思い出です。

広報紙はカウンセラーへの情報提供と出来立ての環境カウンセラーの存在を広く社会にアピールするための大切なツールととらえ、「見た目がきれい」で「専門性のある内容をわかりやすく」を方針としました。見た目は印刷とレイアウトがカギですが、印刷については知り合いの印刷屋さんが格安で引き受けてくれてクリアー。レイアウトはワードの様々な編集機能を使って私が引き受けました。今はどこも機関紙をそのようにして出しますが、当時、レイアウトはプロの世界で、内容を充実させながら、いかに読みやすくまとめるか試行錯誤を繰り返しました。おかげで、ワードの編集機能の腕は大幅に向上しました。

内容はEC千葉独自の活動はあまり多くない状況でしたから、カウンセラー個人の活動紹介やトピックス解説などを加えました。せっかく皆さんに書いていただいても、専門分野が違ふと不案内なことが多く、編集段階で専門用語には解説を入れたり、歴史的な経緯を追加し、当然字数がオーバーしますから、重複している所をカットしたりしましたので、かなり軋轢を生みました。当初はメールをされている会員が少なく、変更の確認や校正は電話とFAXが主ですが、我が家にはFAXがなく、コンビニでFAXをしたら900円もかかってびっくりしました。

当初は社会に協働の仕組みが少なく、また、専門的な活動と横断的な活動はなかなか相容れない点が多く、思うように協働や横断的な活動への展開が進まないことに苛立ち、人間関係がギクシャクし、私も広報部をやめざるを得ない状況になりました。その後、皆々様の粘り強い活動で、NPO法人化し、EC千葉ならではの様々な自主事業、協働事業が展開できるようになり、大変うれしく思うと同時に、中心になる皆様のご苦勞に本当に感謝しています。

当時お世話になった室中さん、籠谷さんを始め、多くの方との連絡は取れなくなりましたが、それぞれに活躍をされていることでしょう。ご健勝を祈っております。

EC 千葉の 10 年は私の 10 年

鈴木 茂夫

EC 千葉 10 周年。会員の皆様と喜びを分かち合うことができ、嬉しい限りです。私の 10 年、そのスタートは平成 9 年 3 月 31 日でした。この日に環境カウンセラー合格通知を受け取りました。

その年の 9 月 27 日の日記に「みつわ台会議、13 時から 15 時 40 分」の記載があり、たぶんこの日が協議会設立の初めての会議だったと思われます。その後、毎月打合せ会議を開き、設立総会開催の準備をしたことが書かれています。設立総会は翌年 2 月 8 日、私は司会役をお引き受けしました。

協議会設立後 12 年 7 月頃より総務部を担当することになり、以後ひたすら毎月の運営委員会議事録作りと会計処理、総会の準備と開催、それに懇親会の設定に追われたことを記憶しています。

14 年の 8 月になると協議会に新たな展開がありました。この月の議事録を抜粋すると、「県の NPO フォーラム実行委員募集に応募したが、NPO でないため外された。(中略)今後 NPO 法人化を目指す意思を表明していかなければならない」との國廣氏から報告がなされました。翌 9 月には法人化への行動を起こすことを決定して、活動推進母体「NPO 法人設立推進委員会」の設置を決めました。また同時に、協議会の会計年度を官庁の年度と同じに改める手続きを総務部で行うことになりました。そこで総務部として 10 月にその素案を、12 月に下記のような具体策を提示し承認されました。

- 1) 14 年度を規約どおりに 12 月 31 日にしめて監査を受ける。
- 2) 1 月 1 日から 3 月 31 日までを移行期間として予算措置を行い、この期間の監査を 4 月初旬に受ける。
- 3) 15 年度の定期総会を 4 月中旬以降に開催し、ここで 12 月 31 日までの 14 年度と移行期間における報告と承認を得る。
- 4) 会計年度の変更、役員任期の 3 ヶ月間延長などの必要な執行に対しては、臨時総会を開いて決定することに替えてメールと郵便を活用した表決の方法で承認を得る。

表決の結果、法人化を「承認しない」はゼロであり、15 年 1 月の運営委員会においてこれを報告し、総会を 3 月 29 日に開催することが決定されました。

協議会の発展的解散総会、年度変更移行期間に限った総会、特定非営利活動法人環境カウンセラー千葉県協議会設立総会がこの日逐次開催され、会員各位のご協力によって成功裏に終わり、私は肩の荷を降ろすことができました。

多くの仲間助けられたこの時の体験が、その後の地元での NPO 法人経営や自治会運営、組合員生協での委員会活動などに大変役立ちました。EC 千葉の 10 年は私にとっての 10 年でもあり、懐かしい思い出です。

もう 10 年になるのですね

小西 由希子

会発足の日をよく覚えています。

一人ずつ前に出て自己紹介しましたね。村上利子さん、佐藤素子さん、鈴木優子さんなど市民部門の方は普段から頼りにしお世話になっている方々でうれしかったです。事業者部門の方々はほとんど面識がなかったのですが、当時私は千葉県環境財団で働いており、そこでご一緒させていただいていた甘利正詩さんや籠谷公男さん（当時の私の上司！）、末永和幸さんなどがいらっしゃって心強かった思い出があります。有馬富徳さんや野田市の高嶋洋さんにはこれがご縁でその後お世話になりました。その後すぐ入会された南川忠男さんは、現役で化学分野のお仕事をされている方ですが、今は環境学習や谷津田の保全などでご一緒させていただいています。

今年は環境問題への関心が急に高まり、連日のように新聞に環境問題が取り上げられるようになりました。会が設立された 10 年前は、まだまだそこまでは言っていませんでしたね。ただ、環境問題への関心は熱いものがあって、みんな何かアクションを起こしていこう！起こしていきたい！という気持ちが沸々していたと思います。情報も集めようと一人一人が一生懸命でした。わたしも当時は 30 代でした。

一方で環境カウンセラーになって何ができるのかと、最初は全く手探りでしたね。環境省は何をしてくれるのかと、更新の際の研修会で発言した人もいました。

そんな中、千葉県協議会が作られたわけですね。試行錯誤の中、いくつかの事業部ができ、ホームページが充実し、あちこちの環境展で環境カウンセラー千葉県協議会の名前を見かけるようになりました。環境セミナーやエコアクション 21、高等学校での環境学習カリキュラムが確立され、環境カウンセラーならではの、環境カウンセラーだからできる、充実した、内容の濃い事業を立ち上げ継続されていること、本当に素晴らしいと思います。若造の私が失礼を承知で申し上げますと、中心になって動いてくださっている皆様は本当にまじめで真剣、ボランティア活動ではともすると軽んじられがちな「責任感」をもって堅実な活動をされていることに、いつも頭が下がる思いです。

環境問題への盛り上がりをブームで終わらせず、解決に向けて歩みを進めていくためには、個人のライフスタイルの変革だけでなく産業とどう関わっていくかが鍵になると思います。そのためにも、市民団体や行政だけでなくこれからは現役の事業者の方々にもぜひ多く関わっていただきたいものですね。また、環境教育の重要性も再認識され、きっとこれからは引っ張りだこになるのではないのでしょうか。専門家集団として、自治体の政策立案にも関わって行って欲しいと思います。知恵袋のような協議会は、私にとっては大いなる学びの場でもあります。いつも会報誌やメールを拝読するだけのユウレイ会員で、大変申し訳なく思っておりますが、今後ともどうかよろしくお願い致します。

EC 千葉での 10 年の想い

野口 康男

平成 8 年、第一回目の環境カウンセラーに登録した時は、宇都宮に勤務しており定年後は千葉に戻る事にしていましたので、登録は千葉県とし環境カウンセラー千葉県協議会設立総会に出席し、平成 10 年に千葉へ戻り EC 千葉の講演会やアフターに参加するようになりました。

平成 11 年田中茂調査研究部長の下、副部長として、養老溪谷の自然観察会の実施前には、軽ジープで山、川、植物等の状態を見て回ったものでした。船橋市塚田公民館環境展では、メダカ、ナマズ、フナ、ドジョウ、ザリガニ等を水槽に入れ子どもたちと楽しんだのも懐かしいです。

平成 12 年は企画部長を担当、急に忙しくなりました。企画部の大イベントである、「エコメッセちば」には運営委員として参加し「企業環境セミナー」はシャープさんの協力で成功裏に開催する事が出来ました。村上会長も「くらしの会」を率いて会場で「着物リサイクルショー」など開催されていました。村上会長の顔は大変なもので、県担当課長、千葉商工会議所、県産業振興センター、環境団体等の多くの関係者と知り合いになりました。

平成 13 年は、企画部に事業部を吸収し新事業部として土田茂通さんが新部長となり、私は副会長、情報部長となり、理事会用メーリングを立ち上げ現在も活用されています。

平成 14 年から平成 16 年までは家の事情もあり、顧問となって会の実務から離れていましたが、理事会にはまめに出席していました。平成 17 年に土田理事長から事務局次長を頼まれ引き受け、2 年間理事会議事録を参加していない会員にも分かるように気をつけ作成しました。日曜大工が趣味で、ホームセンターに一日居ても飽きることはありません。環境装置の「油水分離装置」は今でも製造担当者です。EC 千葉では低電圧扇風機、分子模型、人力自転車発電機等の製作に係わっています。

照明比較装置を初めて見たのは平成 17 年千葉友の会の環境学習会で、千葉市提供の装置だったと思いますが、自前で LED を取り入れ、船橋北高校の環境学習授業で 2 セット、市川市の県立現代産業科学館での「子ども環境学習会」用に大型の電流計を使用し 2 セットを製作しました。

市川の方は正月の製作となり朝からドリル音で家人に嫌がられました。「子ども環境学習会」の様子が NHK 総合 TV で放映されたのを見て納得してくれました。

平成 19 年からは EMS 支援センター副センター長のほか、千葉県環境財団・EA21 地域事務局への EC 千葉派遣要員となり、中小企業の EA21 認証取得の地域事務局員として勤務しています。



照明比較装置 2007.1.31 NHK 総合 TV

千葉と北海道の10年

本間 格

EC千葉の設立に参加したのとほぼ同時に北海道への出張を余儀なくされた。北海道でもちょうどその頃、EC北海道の設立の準備をしていた。設立第1回のセミナーは私が産廃の処理方法、もう1人はリサイクルの話をした。北海道は広大なため、他の地域でもセミナーなどを開催して欲しいという会員からの希望もあり、ECと北海道環境サポートセンターの共催で暫時地方でのセミナーも開かれるようになった。

私は登別市で1度「ごみの分別」をテーマに話をした。50名弱の集まりでかなり熱心に聴いてくれた。その後室蘭、伊達、白老など道南地区で同じテーマでセミナーを開いた。なにしろ北海道は居住地の登別から札幌まで特急で1時間半、例えば旭川でのセミナーに参加するには朝7時に登別を出発、札幌乗換えで到着は11時になる。地方でのセミナー開催は、集客及び広さ故に順次減り、札幌での開催中心となった。

後に札幌で環境省によるECCのセミナー開催時には新人研修を担当、その後ECU環境学習のセミナーが苫小牧で開催された時もサポート役として参加した。

ECの活動は環境省北海道事務所が出来てからは協働して行い、EC北海道では2-3人が常駐してサポートしている。

北海道は寒冷の気候のせいか、時間にルーズな反面何事にも粘り強い気質を持っている人が多いようである。千葉は気候温暖で総じておおらかな気質が特徴であるが、一方狭気の世界が生きている社会でもある。EC千葉設立時は落ち着かず、活動にも手がかかず、皆の周りであたふたしていた。ただ研修会などには帰宅しては頻繁に参加していた。

市民部門に関しては以前から興味を持っていた。市民及び事業者部門は平等であるとの考えから登録審査を受け、平成15年登録された。また日本環境協会の「こども環境相談室」の相談員にもなったが、これは単にこどもが好きだからで、こども相手に話をするとおもむきことから発想の転換を迫られる場面に遭遇し、有意義なひと時をすごせた。

5年前に北海道を引き上げ千葉へ戻り、その時広報部長を引き受け現在に至っている。北海道ではEC活動より、観光重視だった？ようで、札幌、小樽は勿論函館を始め富良野・美瑛から知床、釧路、根室など北海道を満喫した10年間であった。



知床峠 撮影 2008.6

「飲んで騒いで、のぼるな知床」

左は世界遺産の知床の知床峠。(2008.6)
観光客は沢山来て欲しいが、そのために自然が破壊される、ごみが増える事態は困る。
漂着ゴミもある。羅臼側の清掃では一時間で250kg回収。魚網、ペットボトル、ビニール、玩具等種々雑多。ゴミの国籍もロシア、韓国・北朝鮮と様々。

とりとめのない話

倉田 智子

協議会設立の話があったとき、当時は地域に新たなグループを作り活動を開始したばかりで、会に出て行ける状況にはありませんでした。ただ一人でも多い参加が望まれているのだらうと思い、入会しました。広報を担当した佐藤素子さんとは印旛沼を通じての知り合いでしたが、協力するでもなく、会の活動とは一切無縁で、地域に没頭していました。今振り返ると広報すらきちんと読んでいない、頭数だけの会員でした。

平成 8 年に鎌ヶ谷市内の全川の調査をし、以来水環境を活動テーマにしていますが、「Love Our Bay 募金」の助成金の授与式に出かけた平成 13 年秋、海浜幕張のエコメッセの屋外会場で國廣さんほか EC の皆さまとお会いしました。そこで人材スカウト係？の土田さんの目に留まったようです。その当時は主宰する会の運営も軌道に乗り、多少余裕が出てきていました。佐藤さんを手助けしなくてはという気持ちもありましたので、徐々に協議会に引き込まれていきました。市民部門で会務に関わる方は少なく、その状況は今でも続いています。

柏での地球温暖化防止活動推進員の養成・ブラッシュアップ研修会では、講師の土田さんの、エネルギー消費傾向の分析がおもしろく、データ蓄積が重要なことは分野が違っても同じと理解できました。またエコワット貸出で家庭内の電力を測るに当たり、一年で一番エネルギー消費が少ない時期の 10 月——自然に触れるにも一番いい季節——と寒くなり始める 11 月と比較しやすく、無理のない時期を選んでいることに感心しました。分野違いに興味を持つのは、ただただ好奇心からです。多少難しくても理解できなくても、その場での発見、気付きは、確かに自分だけのものですし、とても参考になります。

「10 年のあゆみ」に取り組んでいて設立時の名簿に、ある男性のお名前を見つけました。EC 仲間とは存じませんでした。お人柄がよく、お若く（私より）ご存命であったなら協議会の主要なメンバーになっていただろうと残念に思いました。

会務より地域での活動に力を入れている私は、理事会に参加できないことが多く、申し訳なく思っています。今年の総会で小野さんが「女性理事が 5 人」になる日を唱えてくださいました。諸手を上げて賛成です。女性が無理なく関われる条件整備が必要でしょう。市民部門の活動にも理解くださる方が増えると助かります。なにより女性理事のなり手が現れることが現在の最大の望みです。

モリアオガエルのオタマジャクシ

2008.10



ワードと格闘の日々

河井 恵子

平成 15 年から 2 年間事務局次長として毎月の理事会の議事録を担当しました。その当時の事務局長は、現理事長の戸村氏でした。理事 1 年目でもあり何も分からず白紙の状態を担当しました。

1 年目は、とにかくノートに皆様の発言をひたすら書きなぐり、理事会が終わると毎回 10 ページは軽く超える量に、ため息しました。そのノートをもとに議事録案を作成したのですが、なにしろ右手人差し指 1 本（今でもですが）でパソコンを打っていましたので、家族から見ると結構大変な作業に見えたと思います。2 年目は概略をのせた議事録案に、一番発言内容をご存知のそれぞれの担当の責任者に加筆訂正していただく形にしました。すべての担当者からの訂正文をもれなく織り込むことに注意さえすればよいので、とても楽になりました。

環境カウンセラーとしての活動というよりその活動を記録に残す立場でしたが、事務局長の暖かいご指導や、理事の皆様の熱意ある使命感を感じることができたので、とてもいい役割を担当させて戴けたと感謝しています。現在は、介護や別の団体での活動が忙しく協議会の活動に参加できませんが、皆様の活動には感謝しています。

NPO 活動が研修とむすびについて

鈴木 優子

一番の思い出は、平成 19 年 1 月、千葉県・千葉県立中央博物館と NPO の協働で開催した、企画展「千葉の干潟展～砂と泥に隠れた驚きの世界」に、EC 千葉の皆様が環境学習センターの企画行事として来館して下さったことです。

午前中、企画展示室、参加型の展示室、ロビーでの飼育展示の解説やサイドイベントを見ていただきました。昼食はレストランの特別メニュー

「千葉のお雑煮」を取られ、午後の理事会に向われましたね。あの時のアオノリは冬になっても海水温が下がらないため育たず、開催中のメニューには間に合わない心配しましたが、やっと数日前に大原から入荷したものでした。参加型展示室



では「美味しい干潟」「アオギスの脚立釣り」「夜の干潟 Box」のコーナー、千葉大院生の絵巻物の緻密さ（1 か月、研究室に泊り込みという力作）などに皆様は関心を持たれたようでした。この企画展をコーディネートしたことを暖かく労っていただきました。

20 年 1 月の環境学習センターの再度の研修では「生物多様性ちば県戦略づくり」での、県民参加の状況や、各地で開かれたテーマ別グループ会からのナマの意見や提言を報告しました。3 月 25 日に「生物多様性ちば県戦略」が策定される夜明け前のことでした。

設立 10 周年 記念行事

平成 20 年、設立 10 周年の記念年に当たって、下記の記念行事を計画し、実施しました。

1. 記念特別講演会（第 6 回通常総会に引き続いて開催）：平成 20 年 5 月 25 日

「低炭素社会の構築に向けたロードマップ」

（独）国立環境研究所地球環境研究センター 芦名 秀一氏

2. 記念パーティー（上記講演会に引き続いて開催）

平成 20 年 5 月 25 日 千葉駅ビル 5 階 ペリエホール

- ・ 50 名の出席者を得て、盛大になごやかに開催、
今後の協議会の更なる発展をみんなで誓い合った。
- ・ 5 名のご来賓の方々から祝辞を賜る。

環境省関東地方事務所 環境対策課長 溝口 幸夫氏

千葉県環境生活部温暖化対策室長 小澤 誠一氏

（財）千葉県環境財団 理事長 小久保 英二氏

千葉商工会議所 常務理事 斉藤 三男氏

（独）国立環境研究所 芦名 秀一氏

- ・ 設立からの歴代代表・会長・理事長に感謝状贈呈

小角 浩氏、村上 利子氏、土田 茂通氏



3. 記念自然観察会：十和田八幡平

平成 20 年 10 月 1～3 日

初めての 2 泊 3 日の観察会

参加者 20 名



八幡平頂上にて 2008. 10. 2

4. 記念誌発行

平成 20 年 12 月に発行予定 「10 年のあゆみ」 300 部

当協議会の 10 年間の活動の概要を纏めた。

一言メッセージ

小野鈴子：環境学習センター副部長

カウンセラーは中央の意思を広く一般の方々に橋渡しすることと思います。
自分達の目線がどこにあるのかを常に自戒しつつ、次の10年を築きましょう。

阿部邦夫：環境学習センター副部長

環境学習センターではバイオマスを担当。世界に通用する事が面白い。バルカン
諸国で3回指導。今タイ国で計画中。太陽の恵こそエネルギーの根源！を実感。

西田啓作：EMS支援センター副センター長

環境のド素人がEMSと付き合い始めて10年。体が動く限り、ISO14001や
エコアクション21が経営に役立つようお手伝いをさせていただきます。

松本源寿：広報部

日頃、遠方を理由に会合に欠席、細々とメールでのお手伝いでした。奇しくも
本日10月18日、光回線開通。今後回線強化を活用、以前に増してお役に立て
る様に努めたい。

藤田忠宏：監事

環境カウンセラーの活動は県内全域にわたり、その活動は地域によってレベル
差がある。このレベル差を平準化するのも意義のある事と思う。個人では「お
ひさまエネルギーファンド」に投資、自宅にも太陽光発電パネルを設置した。

吉海照直：監事

協議会に参加することのメリットである研修や講座での勉強の機会や会員の方達
の経験に基づく話から得られる知識、情報や刺激が自身の判断に役立っています。

古口 誠：秋季研修参加・EMS支援センター

10周年、おめでとうございます。少しずつ活動していきたいと思います。今後と
もご指導をお願いします。

佐藤幸男：秋季研修参加

10周年、おめでとうございます。研修会、公開講座などに引き続き出席させて
いただき、皆さんの活動や情報などを学びたいと思います。

長谷川三喜雄：事務局次長、事業部副センター長

EC千葉への入会后3年が経ちました。エコメッセに始まり、事務局、事業部そ
して水環境対策センターのお手伝いへと広がってきました。少しでもお役に立て
ればと思っています。

中庭武雄：環境学習センター副センター長

いつも皆様から温かいご指導を頂きまして、心より感謝しております。学校の
環境学習を支援できる環境カウンセラーになれるよう頑張ります。本会のます
ますの発展を祈念しております。

荒野詰也：顧問

当時の環境庁で他県の動きを聞いたら兵庫県のみが会を結成したらしいといわれ、我々もやろうと一期生の数人が作草部駅近くの喫茶店に集まって協議した。ときは平成9年の秋口でこれが現組織の起点となっているのは、感慨深い。

久保博海：秋季研修参加・EMS 支援センター

入会して1年半、当初の思いとは裏腹に、なんらお手伝いできないまま経過してしまった。これを契機に少なくとも積極的に活動に参加することを心がけたい。

吉野定治：EMS 支援センター船橋地区担当

2006年入会、エコアクション21を中心とした指導活動を進めています。中核都市船橋市をさらに活性化すべく船橋商工会議所を主軸に頑張ります。

三須一芳：EMS 支援センター幹事

厳しくなる環境問題に対して早くから活動に取り組みされた諸先輩方に敬服致します。少しでもお役に立てればと考えております。今後ともご指導宜しくお願い申し上げます。

宮田 勉：EMS 支援センター

12月にISO, EA21等EMS事務局協議会準備会合があります。CDMも国内統合システムが動き出しました。協働の時代です。これからが本番！

鈴木恵子：環境学習センター

「船橋ネイチャーゲームの会」が環境功労者（環境保全活動の充実、環境教育の振興）として平成20年度船橋市の市政功労及び教育功労賞をいただきました。環境学習の分野での表彰は思いがけなく、うれしいものでした。

中川文子：環境学習センター

私にとって、協議会の一員で有る事が、活動のお守りです。居心地良い会の、さまざまな企画の研修に参加し、得た糧を地域活動へ反映出来る様、努力したいと思います。

野口 久：EMS 支援センター幹事

10周年おめでとうございます。広報を担当した頃が懐かしく思い出されます。はるか県北で、ささやかな環境保全活動を展開しながら、EC千葉のご繁栄を祈念しております。

雨が地中にしみこむように、環境意識が社会にいきわたりますように。

2008.10 三千院・雨水浸透仕掛け



資 料

設立時および現在

7. 10年間の組織及び役員

平成10年度 1998.2.8 設立総会

委員	代表	小角 浩	運営委員	企画部長	田邊敏雄
運営委員	副代表	神藤 賢	運営委員	企画部	有馬富穂
運営委員	副代表	村上利子	運営委員	企画部	田中 茂
運営委員	総務部長	籠谷公男	運営委員	広報部長	佐藤素子
運営委員	総務部	長沼 明	運営委員	広報部	大山長七郎
運営委員	総務部	品田芳二郎	運営委員	広報部	室中善博
			監事		荒野詰也
			監事		廣川一男

平成11年度 1999.2.14 総会

	代表	小角 浩	運営委員	広報部長	佐藤素子
運営委員	副代表	神藤 賢	運営委員	広報部副部長	大山長七郎
運営委員	副代表	村上利子	運営委員	広報部副部長	室中善博
運営委員	事務局長	籠谷公男	運営委員	広報部副部長	辻川 毅
運営委員	事務局	小西由希子	運営委員	広報部副部長	田宮克哉
運営委員	総務部長	品田芳二郎	運営委員	調査研究部長	田中 茂
運営委員	総務部副部長	長沼 明	運営委員	調査研究副部長	田窪幸雄
運営委員	総務部副部長	鈴木茂夫	運営委員	調査研究副部長	野口康男
運営委員	企画部長	有馬富穂	運営委員	調査研究副部長	林 正徳
運営委員	企画部副部長	田邊俊雄	監事		荒野詰也
運営委員	企画部副部長	土田茂通	監事		廣川一男
運営委員	企画部副部長	宮村啓二			

平成12年度 2000.2.13 総会

	会長	村上利子	運営委員	情報部長	有馬富穂
運営委員	副会長	籠谷公男	運営委員	情報副部長	辻川 毅
運営委員	副会長	有馬富穂	運営委員	広報部長	佐藤素子
運営委員	副会長	佐藤素子	運営委員	広報副部長	大山長七郎
運営委員	事務局長	籠谷公男	運営委員	広報副部長	室中善博
運営委員	総務部長	長沼 明	運営委員	EMS 支援センター長	林 正徳
運営委員	総務副部長	鈴木茂夫	監事		品田芳二郎
運営委員	企画部長	野口康男	監事		廣川一男
運営委員	企画副部長	土田茂通	顧問		小角 浩
運営委員	企画副部長	宮村啓二	顧問		神藤 賢
運営委員	事業部長	田中 茂			
運営委員	事業副部長	麦野 裕			
運営委員	事業副部長	國廣隆紀			
運営委員	情報副部長	荒野詰也			

(注)環境マネジメントシステム支援センターを EMS 支援センターと略記する。

平成13年度 2001.2.11 総会

運営委員	会長	村上利子	運営委員	事業部長	土田茂通
運営委員	副会長	田中 茂	運営委員	事業部副部長	服部達雄
運営委員	副会長	野口康男	運営委員	事業部副部長	宮村啓二
運営委員	副会長	國廣隆紀	運営委員	EMS 支援センター長	林 正徳
運営委員	総務部長	鈴木茂夫	運営委員	地球温暖化防止センター長	荒野詰也
運営委員	広報部長	國廣隆紀	運営委員	廃棄物対策センター長	大山長七郎
運営委員	広報部副部長	丸島忠夫	監事		品田芳二郎
運営委員	情報部長	野口康男	監事		廣川一男
			顧問		籠谷公男

平成 14 年度 2002.2.23 総会

運営委員	会長	村上利子	運営委員	EMS 支援センター長	二宮 恵
運営委員	副会長	國廣隆紀	運営委員	地球温暖化防止センター長	辻川 毅
運営委員	副会長	土田茂通	運営委員	廃棄物対策センター長	大山長七郎
運営委員	副会長	鈴木茂夫	運営委員		荒野詰也
運営委員	総務部長	鈴木茂夫	運営委員		田中 茂
運営委員	総務部副部長	林 正徳	監事		品田芳二郎
運営委員	広報部長	國廣隆紀	監事		廣川一男
運営委員	(広報部副部長)	丸島忠夫	顧問		小角 浩
運営委員	情報部長	國廣隆紀	顧問		野口康男
運営委員	事業部長	土田茂通			
運営委員	(事業部副部長)	宮村啓二			
運営委員	(事業部副部長)	藤田忠宏			
運営委員	(事業部副部長)	服部達雄			

平成 15 年度 2003.3.29 設立総会(第 1 回通常総会)

理事	理事長	土田茂通	理事	EMS 支援センター長	二宮 恵
理事	副理事長	藤田忠宏		副センター長	林 正徳
理事	副理事長	國廣隆紀	理事	地球温暖化対策センター長	辻川 毅
理事	事務局長	戸村 泰	理事	副センター長	服部達雄
理事	次長	河井恵子	理事	廃棄物対策センター長	大山長七郎
理事	総務部長	丸島忠夫	理事	環境学習センター長	倉田智子
理事	副部長	鈴木茂夫	理事	副センター長	田中 茂
理事	事業部長	茂利 晃	理事	参与(市民活動担当)	村上利子
理事	副部長	宮村啓二	監事		品田芳二郎
理事	広報部長	野口 久	監事		廣川一男
	副部長	藤田忠宏	顧問		小角 浩
理事	副部長	林 正徳	顧問		荒野詰也
	情報部長	國廣隆紀	顧問		有馬富徳
			顧問		野口康男

平成 16 年度 2004.6.6 第 2 回通常総会

理事	理事長	土田茂通	理事	地球温暖化対策センター長	辻川 毅
理事	副理事長(EC Chiba 担当)	國廣隆紀	理事	副センター長	服部達雄
理事	副理事長(ECU 担当)	藤田忠宏	理事	廃棄物対策センター長	大山長七郎
理事	事務局長	戸村 泰	理事	副センター長	石黒 忠
理事	事務局次長(主に理事会担当)	河井恵子		環境学習センター長	林 正徳
理事	事務局次長(主に新事業担当)	古畑義正	理事	副センター長	阿部 邦夫
	総務部長	戸村 泰	理事	市民活動担当	村上 利子
理事	副部長	吉海照直	監事		品田芳二郎
	副部長	古畑義正	監事		廣川一男
理事	事業部長	茂利 晃	顧問		小角 浩
理事	広報部長(兼 ECU 担当)	本間 格	顧問		有馬富徳
理事	副部長	倉田智子	顧問		荒野詰也
	情報部長	國廣隆紀	顧問		鈴木茂夫
理事	EMS 支援センター長	二宮 恵	顧問		野口康男
理事	副センター長	野口 久			
理事	副センター長	林 正徳			

平成 17 年度 2005.5.29 第 3 回通常総会

理事	理事長	土田茂通	理事	地球温暖化対策センター長	辻川 毅
理事	副理事長(EC-Chiba 担当)	國廣隆紀		副センター長	服部達雄
理事	副理事長(ECU 担当千葉代表)	戸村 泰	理事	副センター長	大木久光
理事	事務局長	服部達雄	理事	廃棄物対策センター長	大山長七郎
理事	次長	野口康男	理事	副センター長	石黒 忠
理事	総務部長	古畑義正		環境学習センター長	林 正徳
理事	副部長	種本利治	理事	副センター長	阿部邦夫
理事	副部長	吉海照直	理事	副センター長	小野鈴子
理事	事業部長	茂利 晃	監事		廣川一男
	副部長	石黒 忠	監事		藤田忠宏
理事	広報部長(兼、ECU 担当)	本間 格	監事		鈴木茂夫
理事	副部長	倉田智子	顧問		小角 浩
	情報部長	國廣隆紀	顧問		村上利子
理事	EMS 支援センター長	二宮 恵	顧問		荒野詰也
理事	副センター長	西田啓作	顧問		有馬富徳
理事	副センター長	林 正徳			

平成 18 年度 2006.5.28 第 4 回通常総会

理事	理事長	土田茂通	理事	地球温暖化対策センター長	辻川 毅
理事	副理事長(EC-Chiba 担当)	國廣隆紀		副センター長	服部達雄
理事	副理事長(ECU 担当千葉代表)	戸村 泰	理事	副センター長	大木久光
理事	事務局長	服部達雄	理事	廃棄物対策センター長	大山長七郎
理事	次長	野口康男	理事	副センター長	石黒 忠
理事	総務部長	古畑義正		環境学習センター長	林 正徳
理事	副部長	種本利治	理事	副センター長	阿部邦夫
理事	副部長	吉海照直	理事	副センター長	小野鈴子
理事	事業部長	茂利 晃	監事		廣川一男
	副部長	石黒 忠	監事		藤田忠宏
理事	広報部長(兼、ECU 担当)	本間 格	監事		鈴木茂夫
理事	副部長	倉田智子	顧問		小角 浩
	情報部長	國廣隆紀	顧問		村上利子
理事	EMS 支援センター長	二宮 恵	顧問		荒野詰也
理事	副センター長	西田啓作	顧問		有馬富徳
理事	副センター長	林 正徳			

平成 19 年度 2007.5.27 第 5 回通常総会

理事	理事長	戸村 泰	理事	地球温暖化対策センター長	辻川 毅
理事	副理事長	國廣隆紀		副センター長	服部達雄
理事	副理事長	服部達雄	理事	廃棄物対策センター長	石黒 忠
理事	副理事長	二宮 恵		副センター長	大山長七郎
	事務局長	服部達雄		環境学習センター長	種本利治
理事	次長	長谷川三喜雄	理事	副センター長	阿部邦夫
理事	総務部長	古畑義正	理事	副センター長	小野鈴子
理事	副部長（会計）	青木 誠	理事	副センター長	中庭武雄
理事	副部長	種本利治		副センター長	林 正徳
	事業部長	古畑義正	理事	相談役（兼、ECU 担当）	土田茂通
	副部長	長谷川三喜雄	監事		廣川一男
	副部長	上口清彦	監事		藤田忠宏
	副部長	茂利 晃	監事		吉海照直
理事	広報部長	倉田智子	顧問	兼、ECU 担当	小角 浩
理事	副部長	上口清彦	顧問		荒野詰也
理事	副部長兼、ECU 担当	本間 格	顧問		有馬富穂
	情報部長	國廣隆紀		アドバイザー	大山長七郎
	副部長	有馬富穂		アドバイザー	林 正徳
	EMS 支援センター長	二宮 恵		アドバイザー	小関光二
理事	副センター長	西田啓作		アドバイザー	大木久光
理事	副センター長兼 EA21 地域事務局	野口康男			
	副センター長	種本利治			

平成 20 年度 2008.5.25 第 6 回通常総会

理事	理事長	戸村 泰	理事	地球温暖化対策センター長	辻川 毅
理事	副理事長	國廣隆紀		副センター長	服部達雄
理事	副理事長	服部達雄	理事	廃棄物対策センター長	石黒 忠
理事	副理事長	茂利 晃		副センター長	大山長七郎
理事	副理事長	二宮 恵		環境学習センター長	種本利治
	事務局長	服部達雄	理事	副センター長	阿部邦夫
理事	次長	長谷川三喜雄	理事	副センター長	小野鈴子
理事	総務部長	古畑義正	理事	副センター長	中庭武雄
理事	副部長（会計）	青木 誠		副センター長	林 正徳
理事	副部長	種本利治		水環境対策センター長	古畑義正
	事業部長	茂利 晃		副センター長	上口清彦
	副部長	長谷川三喜雄	理事	相談役（兼、ECU 担当）	土田茂通
理事	広報部長	倉田智子	監事		廣川一男
理事	副部長	上口清彦	監事		藤田忠宏
理事	副部長（兼、ECU 担当）	本間 格	監事		吉海照直
	情報部長	國廣隆紀	顧問	兼、ECU 担当	小角 浩
	副部長	有馬富穂	顧問		荒野詰也
	EMS 支援センター長	二宮 恵	顧問		有馬富穂
理事	副センター長	西田啓作		アドバイザー	大山長七郎
理事	副センター長兼 EA21 地域事務局	野口康男		アドバイザー	林 正徳
	副センター長	種本利治		アドバイザー	小関光二
				アドバイザー	大木久光

8. 設立当時の資料

設立について（参加要請）H9.11.4

平成 9年11月4日	香 塚	理事長カウンスラー千原信雄議会の設立について （参加要請）
拝啓	同啓	<p>貴会より、記事日々その趣意を察す様となりまして、貴社におかれましては、ますますご繁栄にてお過ごしのことと存じます。</p> <p>さて、かねてより、平成9年4月1日付けをもち、「理事長カウンスラー」に選出され、去る9月1・2日に行われた「平成9年度理事長カウンスラー協議」受講のうち、私共が中心を担い、また、関係機関等との連絡を絶えず、この際、以下に記すべく、理事の選出に、前記協議会を担任すべく、貴社入会を要請いたしました。</p> <p>『設立趣旨』として、本会は、理事長の選出に先立ち、選出された「理事長カウンスラー」のうち、事務局に居住、または活動し、本会の趣旨に賛同した者によって構成され、それぞれの特許、商標等を有する専門的な知識・経験に基づき、市民団体、事業者、教育、行政機関、法主体と、パートナーシップを形成し、環境保全活動の推進に貢献することを目的とします。</p> <p>この目的を達成するため、当選考される『活動内容』として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本会連、各機関での、環境に関するシンポジウム、フォーラム等を実施する。 ・ 会員の相互研修のための研修と情報交換を行う。 ・ 環境保全活動の課題に対応する相談窓口を設置する。 <p>等を考えています。</p> <p>『会員の団体との関係』として、会内には環境に関する各団体が数多く存在し、協働してありますが、これら各団体とも連絡を確つばか、会内における「理事長カウンスラー」に関する関係等とも情報交換・協力関係の構築を計ります。</p> <p>以上、協議会設立趣旨について、その概要を述べておりましたが、前記協議会規約（案）及びご参加のうえ、是れとも協議会設立にご参加願ひ、会の発展・花実にご参加願ひたく、このご要請申し上げます。</p> <p>つきましては、同封返書同様書に必要事項ご記入のうえ、速くとも本11月末日迄にご返信下さるようお願い致します。</p> <p style="text-align: right;">敬具</p> <p>理事長カウンスラー千原信雄議会議長兼副会長 （アイウエオ順）</p> <p>有馬 重徳、 木山 長七郎、 原野 浩、 小巻 英子、 佐藤 英子 神原 賢、 辻川 敏、 鈴木 茂夫、 田邊 敏雄、 長谷 明 ・ 本間 伸、 村上 利子、</p> <p>（今後の進め方としては、会期に関する回答を要約したうえ、平成10年3月中旬に設立総会を開催、会を開催させ、4月には第2期「理事長カウンスラー」を選入したい、と予定しています）</p>

設立総会開催案内ガキ H9.12.24

平成 9年12月24日	香 塚	理事長カウンスラー千原信雄議会議長の開催について
拝啓	同啓	<p>貴会より、記事日々その趣意を察す様となりまして、貴社におかれましては、ますますご繁栄にてお過ごしのことと存じます。</p> <p>さて、かねてより、平成9年4月1日付けをもち、「理事長カウンスラー」に選出され、去る9月1・2日に行われた「平成9年度理事長カウンスラー協議」受講のうち、私共が中心を担い、また、関係機関等との連絡を絶えず、この際、以下に記すべく、理事の選出に、前記協議会を担任すべく、貴社入会を要請いたしました。</p> <p>『設立趣旨』として、本会は、理事長の選出に先立ち、選出された「理事長カウンスラー」のうち、事務局に居住、または活動し、本会の趣旨に賛同した者によって構成され、それぞれの特許、商標等を有する専門的な知識・経験に基づき、市民団体、事業者、教育、行政機関、法主体と、パートナーシップを形成し、環境保全活動の推進に貢献することを目的とします。</p> <p>この目的を達成するため、当選考される『活動内容』として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本会連、各機関での、環境に関するシンポジウム、フォーラム等を実施する。 ・ 会員の相互研修のための研修と情報交換を行う。 ・ 環境保全活動の課題に対応する相談窓口を設置する。 <p>等を考えています。</p> <p>『会員の団体との関係』として、会内には環境に関する各団体が数多く存在し、協働してありますが、これら各団体とも連絡を確つばか、会内における「理事長カウンスラー」に関する関係等とも情報交換・協力関係の構築を計ります。</p> <p>以上、協議会設立趣旨について、その概要を述べておりましたが、前記協議会規約（案）及びご参加のうえ、是れとも協議会設立にご参加願ひ、会の発展・花実にご参加願ひたく、このご要請申し上げます。</p> <p>つきましては、同封返書同様書に必要事項ご記入のうえ、速くとも本11月末日迄にご返信下さるようお願い致します。</p> <p style="text-align: right;">敬具</p> <p>理事長カウンスラー千原信雄議会議長兼副会長 （アイウエオ順）</p> <p>有馬 重徳、 木山 長七郎、 原野 浩、 小巻 英子、 佐藤 英子 神原 賢、 辻川 敏、 鈴木 茂夫、 田邊 敏雄、 長谷 明 ・ 本間 伸、 村上 利子、</p> <p>（今後の進め方としては、会期に関する回答を要約したうえ、平成10年3月中旬に設立総会を開催、会を開催させ、4月には第2期「理事長カウンスラー」を選入したい、と予定しています）</p>

設立総会議事録

環境カウンセラー千葉県協議会設立総会 議事録

日時 平成 10 年 2 月 8 日 (日) 13:30 - 15:30

場所 千葉市東電ホール

式次第

- 1 発会 : 司会 鈴木茂夫
- 2 議長選出 : 発起人代表 有馬富穂が議長に選出される
- 3 議長挨拶 :
- 4 書記選出 : 大山長七郎, 神藤賢に書記に選出され議事録署名人も兼ねる
- 5 経過報告 : a) 平成 9 年 9 月 発起人会合
b) 平成 9 年 10 月 協議会規約作成 入会勧誘 希望者 52 名
c) アンケートをとり規約修正 資格者全員に本日の出席を勧誘
d) 本日 出席 36 名 委任状 18 名
- 6 規約審議制定
 - 1) 事務局 千葉市若葉区桜木町 627 - 2 村上利子宅に置く
連絡所 千葉市中央区中央 4 - 12 - 12 金剛ビル 5F 千葉県環境財団内 籠谷公男
 - 2) 規約説明 3) 質疑及び裁決
 - 2 項目的 - 環境保全活動の推進に貢献する事を目的とする。 を下記に変更の提案
- 環境保全活動の推進に努力する事を目的とする。 裁決の結果原案通り
 - 3 項会員 - 本会の趣旨に賛同した者を - を下記に変更の提案
- 本会の目的に賛同した者を - 裁決の結果変更その他 部会に入る必要性, 改正の頻度, 等に質問。議長より答弁
- 7 役員選出 運営委員会 代表 小角浩, 副代表 神藤 賢 村上利子
総務部会 部会長 籠谷公男, 副部会長 品田芳二郎 長沼 明
企画部会 部会長 田辺敏雄, 副部会長 有馬富穂 田中 茂
広報部会 部会長 佐藤素子, 副部会長 大山長七郎 室中善博
監事 荒野喆也 廣川一男
- 8 協議会設立宣言 小角代表が協議会発足を宣言
- 9 代表挨拶 小角代表より挨拶
- 10 活動計画説明 小角代表より次の主旨の説明
 - 1) 今は無い, 意見を出してもらい計画を運営委員会が作成 - 大きなもの総会で決定
 - 2) 緩やかな組織化 連携, 楽しく語り合う会, いささかな社会貢献
 - 3) 使い易い名簿の作成, 相互研修 等出席者の自己紹介 (4 つの窓を中心に)
議事録 署名人 大山長七郎 神藤 賢

設立時名簿

環境カウンセラー千葉県協議会設立時名簿

1998.2.8

	部門	氏名	住所	役員
1	事	甘利 正詩	千葉市	
2	事	宮村 啓二	市川市	
3	事	高嶋 洋	野田市	
4	市	佐藤 素子	八千代市	広報
5	事	山畑 裕哉	市原市	
6	事	室中 善博	柏市	副広報
7	事	勝田 悟	成田市	
8	市	小角 浩	袖ヶ浦市	代表
9	市	小宮 陽一	流山市	
10	事市	小沼 稔	千葉市	
11	事	松本 源寿	香取郡	
12	事	神藤 賢	千葉市	副代表
13	市	村上 利子	千葉市	副代表
14	事市	大山長七郎	四街道市	副広報
15	事	大手 和夫	千葉市	
16	市	知念 正晴	船橋市	
17	市	長沼 明	市川市	副総務
18	事	田窪 幸雄	市原市	
19	市	田中 茂	千葉市	副企画
20	市	田邊 敏雄	山武郡	企画
21	事	藤縄 勝久	船橋市	
22	市	麦野 裕	袖ヶ浦市	
23	事	本間 格	八千代市	
24	事	野口 久	野田市	
25	事	野口 康男	千葉市	
26	事	有馬 富穂	八千代市	副企画
27	事	林 正徳	千葉市	
28	事	鈴木 茂夫	我孫子市	

	部門	氏名	住所	役員
29	市	鈴木 優子	千葉市	
30	事	廣川 一男	千葉市	監事
31	事	籠谷 公男	千葉市	総務
32	事	八巻 淳	千葉市	
33	事	加藤 元彦	市原市	
34	事	田中 孝一	千葉市	
35	事	板谷 真積	市原市	
36	市	小西由希子	千葉市	
37	市	菊田 洋子	柏市	
38	市	恵良 好敏	流山市	
39	事	荒野 喆也	千葉市	監事
40	事	山崎 紫朗	市原市	
41	事	川崎 秀雄	柏市	
42	事	草野 信夫	船橋市	
43	事	大坪 俊治	我孫子市	
44	事	渡邊 威文	流山市	
45	事	飛山 肇	千葉市	
46	事	品田芳二郎	千葉市	副総務
47	事	末永 和幸	千葉市	
48	市	藪内 俊光	東京都	
49	事	博松 晋	千葉市	
50	市	倉田 智子	鎌ヶ谷市	
51	事	兼綱 孝紀	船橋市	
52	事	山影 隆男	袖ヶ浦市	
53	市	田宮 克哉	我孫子市	
54	事	今井 栄司	習志野市	
55	事市	辻川 毅	白井町	
56	事	捧 一夫	松戸市	

9. 現在の資料

1. 協議会チラシ

NPO法人
環境カウンセラー千葉県協議会
EC千葉

私たちは次の世代へ より良い環境を残してゆきたい。

「環境カウンセラー」とは、
 環境カウンセラーとは、環境省が行う審査を経て登録された環境問題の専門家です。市民活動や事業活動を通して持続可能な社会に関する専門的知識や豊富な経験を持っており、その知見や経験に基づき、一般の市民の方やNGO、事業者、行政が進められる環境保全活動に対して適切な助言や支援をすることができます。

「NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会」
 千葉県在住の環境カウンセラーを主な会員とし、千葉県内の市民、市民団体、事業者、教育・行政機関などとパートナーシップを形成し、環境保全活動を推進することに取り組んでおります。

事業部、市民部門、あるいは専門部門に登録した会員がそれぞれ専門知識や経験を持ち寄って協議会としての活動に参加しております。環境問題に幅広く対応することができ、どなたでも参加いただけます。

《設立》平成10年2月8日（平成15年7月特定非営利活動法人登録）
 《会員数》128名（平成20年8月1日現在）
 《主な活動》

- (1) 講演セミナー、研修会、自然観察会、見学会などの開催
- (2) 環境問題に関する講演会、改進黨の検討、政策の提言
- (3) 各地の環境イベントへの参加による環境保全の啓発
- (4) 環境関連の講演会、研修会への講師派遣および書籍出版
- (5) 行政機関、事業者などの環境関連事業に対する支援
- (6) まちづくりに関する講演会、政策の提言

特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会
 理事長 戸村 泰
 〒261-0019 千葉県佐倉市区役所5-24-7
 Tel & Fax : 043-276-7300
 E-mail : ec_chiiba_assech@yahoo.co.jp
 Home Page : <http://www005.upp.so-net.jp/eco-chiiba/index.htm>

NPO法人
環境カウンセラー千葉県協議会
EC千葉

NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会の活動

NPO 法人 環境カウンセラー千葉県協議会では、研修会・学習会、講演セミナー、環境公開講座、企業/施設見学、自然観察会など自ら開催するほか、環境学協会・環境政策への講師派遣、各地の環境イベントへの参加などの活動を行っています。

さらに、重要な環境問題に迅速・的確に対応するための活動として「プロジェクトセンター」を設け、特定分野の環境問題、あるいは環境的な課題の二一に取組んでいます。

《プロジェクトセンター》

- ① **環境科学（JAF）/IA（EMMS）支援センター**
 企業の環境管理・推進に経験豊富なメンバーが、ISO14001やE A21の認証取得と取得後の継続改善に関する支援を実施しております。
 ☆ ISO14001、E A21の認証取得等の支援
 ☆ 環境科学（JAF）/IAのセミナー開催、講師派遣
 ☆ 内部監査員養成講座の開催
- ② **地球温暖化対策センター**
 家庭での電気・ガスやマイカーの燃料節約など、私たちの生活に密着したところでの地球温暖化対策を推進する活動を行っています。
 ☆ 地球温暖化防止運動推進員（JAF）/IA研修会
 ☆ 子ども環境学習会、地域での対象活動の支援
 ☆ 発電力計の活用、マイカー実燃費の測定
- ③ **廃棄物対策センター**
 限りある資源を大切に、廃棄物の排出削減、適正処理を推進するよう啓発する活動を進めています。
 また、自治体に協力して廃棄物の不法投棄の防止に取り組んでいます。
 ☆ 各地の環境イベントで実践「ごみ」リサイクル授業
 実践し、正しい捨て方を指導
 ☆ 中高生を対象としたリサイクル教室の開催
- ④ **当協議会員のポテシナルを活用してテキスト、実践教材を作成し、私達ならではの独自の学習プログラムを提供しております。学習テーマには、**
 1) 自然環境のこと、2) 身近な水やゴミのこと、
 3) バイオマスのこと、4) エネルギーの節約、
 5) 地球温暖化、などを幅広く取り上げています。
 中学校、高校での環境教育推進（前編）や協議会の環境学習の教材として活用しています。
- ⑤ **水環境対策センター**
 私たちの日常生活に密着した水、この水が関わる環境の取組を取り上げ、その対策啓発や啓発活動に取り組んでおります。



100 名以上の参加



子ども環境学習会（JAF）/IA 研修会
地球温暖化防止運動推進員（JAF）/IA 研修会



中野区環境学協会の環境
06.7 県立中央高校



県立中央高校環境学協会の環境学協会の活動

2.現在の会員一覧

2008.9.14作成

	部門*	氏名	住所	備考		部門*	氏名	住所	備考
1	事	青木 誠	柏市	理事	65	事	平 忠	柏市	
2	両	秋山 和敏	沖縄県裏添市		66	市	高木 史人	市川市	
3	事	阿部 邦夫	香取市	理事	67	市	田島 文忠	埼玉県さいたま市	
4	事	天川 秀喜	千葉市若葉区		68	事	田中 建一	八千代市	
5	事	甘利 正詩	千葉市中央区		69	両	田中 親男	佐倉市	
7	事	荒井 利男	市原市		70	市	田中 利彦	船橋市	
8	事	有馬 富穂	八千代市	顧問	71	事	種本 利治	浦安市	理事
9	市	池田 紘	千葉市美浜区		72	事	田野崎 隆雄	習志野市	
9	市	猪坂 玲子	東金市		73	両	辻川 毅	白井市	理事
10	事	石黒 忠	千葉市美浜区	理事	74	事	土田 茂通	松戸市	理事
11	事	石田 佳子	東京都江戸川区		75	事	戸村 泰	千葉市美浜区	理事
12	事	五十畑 進	流山市		76	市	中川 文子	松戸市	
13	市	伊藤 章夫	千葉市中央区		77	事	中嶋和彦	浦安市	
14	市	岩倉 三好	松戸市		78	両	中嶋 滋	白井市	
15		岩田 実	千葉市花見川区		79	市	中庭 武雄	柏市	理事
16	事	梅津 敏	印西市		80	両	長沼 明	市川市	
17	事	大木 久光	船橋市	アドバイザー	81	事	西田 啓作	松戸市	理事
18	事	大坪 俊治	我孫子市		82	事	西部 雅	柏市	
19	事	大手 和夫	千葉市中央区		83	事	二宮 恵	市原市	理事
20	市	大西 優子	船橋市		84	事	野口 久	野田市	
21	両	大山 長七郎	四街道市	アドバイザー	85	事	野口 康男	千葉市美浜区	理事
22	事	岡部 正明	浦安市		86	事	野瀬 忠之	野田市	
23	市	長内 悦子	市原市		87	市	芳賀 道子	松戸市	
24	事	小澤 信也	船橋市		88	事	長谷川 誠	印西市	
25	事	小田 信治	千葉市緑区		89	事	長谷川 三喜雄	松戸市	理事
26	市	小野 鈴子	東金市	理事	90	両	服部 達雄	千葉市	理事
27	市	桂 徹	松戸市		91	市	花木 信	船橋市	
27	事	加藤 元彦	市原市		92	事	早川 七博	佐倉市	
28	事	兼綱 孝紀	船橋市		93	両	林 正徳	千葉市若葉区	アドバイザー
30	事	上口 清彦	野田市	理事	94	市	久本 泰秀	松戸市	
31	市	河井 恵子	千葉市美浜区		95		平田 淳一	千葉市美浜区	
32	事	川崎 秀雄	柏市		96	事	平野 宏明	松戸市	
33	事	河村秀樹	千葉市美浜区		97	市	平間 稔夫	市原市	
34	市	鬼沢 良子	柏市		98	事	廣川 一男	千葉市稲毛区	監事
35		木下 順生	千葉市稲毛区		99	市	広田 由紀江	浦安市	
36	事	草野 信夫	船橋市		100	事	福井 信行	柏市	
37	事	國井 茂樹	千葉市緑区		101	事	藤田 忠宏	船橋市	監事
38	事	國廣 隆紀	袖ヶ浦市	理事	102	事	藤縄 勝久	船橋市	
39	事	久保 博海	浦安市		103	事	古川 邦男	千葉市花見川区	
40	事	久保田 隆	山武市		104	事	古畑 義正	習志野市	理事
41	市	倉田 智子	鎌ヶ谷市	理事	105	事	星野 高士	千葉市中央区	
42	事	久留 弘	千葉市若葉区		106	事	堀地 章五	浦安市	
43	事	荒野 詰也	千葉市稲毛区	顧問	107	両	本間 格	八千代市	理事
44	事	古口 誠	市原市		108	市	松本 定子	市川市	
45	事	小坂 雄二	船橋市		109	両	松本 孝	市川市	
46	事	小指 英雄	千葉市		110	事	松本 源寿	香取郡東庄町	
47	両	小角 浩	袖ヶ浦市	顧問	111	市	松山 みよ子	千葉市中央区	
48	両	小関 光二	山武市	アドバイザー	112	事	丸島 忠夫	茂原市	
49	市	小西 由希子	千葉市中央区		113	事	三須 一芳	千葉市若葉区	
50	事	小橋 一民	千葉市美浜区		114	事	見並 勝佳	船橋市	
51	事	捧 一夫	松戸市		115	事	宮田 勉	佐倉市	
52	事	佐藤 満由美	市川市		116	事	宮村 啓二	市川市	
53	事	佐藤 幸男	千葉市緑区		117	事	向井 新太郎	佐倉市	
54	事	佐藤 光生	八千代市		118	事	茂利 晃	佐倉市	理事
55	市	佐藤 素子	八千代市		119	事	森 浩文	四街道市	
56	事	塩田 宏治	市川市		120		柳澤 吉則	千葉市美浜区	
57	事	品田 芳二郎	茂原市		121	事	山影 隆男	袖ヶ浦市	
58	市	上西 忠	白井市		122	市	山口 由富子	市原市	
59	事	神藤 賢	千葉市花見川区		123		山本 光男	夷隅郡大多喜町	
60	事	杉本 公成	千葉市花見川区		124	事	吉海 照直	市原市	監事
61	市	鈴木 恵子	船橋市		125	事	吉田 耕一	成田市	
62	事	鈴木 茂夫	我孫子市		126	事	吉田 昌弘	木更津市	
63	市	鈴木 優子	千葉市稲毛区		126	事	吉野 定治	船橋市	
64		曽根 正裕	松戸市		126	市	渡辺忠明	白井市	

注* 事：事業者部門 市：市民部門 両：両部門 役員・役職の詳細はP.54を参照ください

Pick Up
アルバム

ちば県民だより

H18年6月



第7回環境セミナー 13.2.11 村上講師



土田講師



林講師



H13.8.25~26 夏季研修 (県環境研究センター)



H13.9.2 第6回船橋市塚田公民館環境フェア



H13.10.14 自然観察会「水辺のウォーキング」

鎌ヶ谷・船橋・白井



H14.1.25 千葉市消費生活展 テープカット



会場に詰めたスタッフ



14.6.21 環境カウンセラー全国連合会 年次総会



H14.7.11 かずさクリーンシステム見学



H14.8.25～26 夏季研修（国立環境研究所）



H14.10.25 企業環境セミナー



14.12.22 ECU主催環境学習インストラクター養成講座



H15.10.17 企業環境セミナー



H16.1.17 地球温暖化防止ブラッシュアップ研修会 in 佐原



H16.3.23 炭化施設見学 (株)ムラマツ(松戸)



H19.5.27 第5回通常総会



H19.8.10 筑波宇宙センター見学



H19.10.10 秋季研修 (OVTA)



H19.9.21 ~ 22 自然観察会 上高地



尾瀬のニッコウキスゲ

環境カウンセラー千葉県協議会年表

組織・運営、外部関係		事業部関係			
1998年度 平成10年度	EC千葉設立総会 運営体制:総会-運営委員会-監事 組織:代表、副代表 総務部、企画部、広報部	1998年2月8日 東京電力ホール			
	環境カウンセラー関東連絡会	第1回1998年5月14日 第2回1998年9月11日 第3回1999年1月29日	第1回研修会	1998年5月24日 東京電力千葉支店	「大気・水質汚染物質の測定技術について」(辻川毅) 「環境にやさしい、次世代のごみ処理技術について」(板谷真積)
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第1号1998年5月10日 第2号1998年9月5日 第3号1998年12月25日	第2回研修会	1998年11月29日 東京電力千葉支店	「千葉県環境白書について」(千葉県環境部環境調整課) 「千葉県の河川・湖沼の水質汚濁を考える。」(村上利子) 「市民が市民をサポートすること」(小西由希子) 「千葉県のゴルフ場開発について」(田中茂)
			第1回工場見学会	1998年12月2日 東電富津火力発電所 三井造船	三井造船(R21・廃棄物熱分解溶融システム)
			第3回研修会	1999年2月14日 千葉・塚本ビル	「雨が降っても、風が吹いても、自然に感謝!」(市民部門高木文人) 「我が国における自然保護の歩み」(市民部門小角浩)
1999年度 平成11年度	EC千葉第2回総会 (事務局および調査研究部会の設置)	1999年2月14日 千葉市塚本ビル	第4回講演会	1999年5月1日 TEPCO地球館	「産業廃棄物処理の課題について」(住友重機械・鶴谷泰二氏) 「フロン回収と処理状況について」(大山長七郎) 「千葉県のゴルフ場開発について」(田中茂) 「市民による環境測定活動」(佐藤素子)
	環境マネジメントシステム研究会 (調査研究部の中に設置)	第1回1999年4月25日 第2回1999年5月23日 第3回1999年7月4日	第1回夏季研修会	1999年7月31日、8月1日 さわやか県民プラザ	グループ討議内容: G1「環境ISO14001認証取得支援について」 G2「環境学習と啓発について」 G3「廃棄物と自治体への関わり方について」 G4「協議会の戦略と今後の進め方について」 G5「身近な環境問題を考える」
	環境マネジメント支援センターの発足 (環境マネジメントシステム研究会から改組)	1999年8月29日			
	環境マネジメントシステム支援センター設立 総会(登録者28名)	2000年2月6日 千葉中央コミュニティーセンター	第2回工場見学会	1999年9月21,22日 東電柏崎原子力発電所	
	環境学習研究会発足				
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第4号1999年4月4日 第5号1999年6月30日 第6号1999年9月25日 第7号1999年12月25日			
2000年度 平成12年度	EC千葉第3回総会 代表、副代表を会長、副会長に変更 事業部、情報部の設置 環境マネジメントシステム(EMS)支援センターをプロジェクトとして組織位置付け。	2000年2月13日 千葉中央コミュニティーセンター	第5回研修会	2000年2月13日 千葉中央コミュニティーセンター	「予算案から見た平成12年度環境行政の概要」(小角浩) 「地球温暖化防止と省エネ法改正のポイント」(神藤賢) 「環境庁指針に基づく地質地下水汚染の概要について」(品田芳二郎)
	環境省の発足	2001年(平成13年)1月6日	第6回研修会	2000年5月14日 千葉中央コミュニティーセンター	「千葉県地球温暖化防止計画」(県環境部環境生活課副主幹 高梨秀一氏) 「環境ホルモン分析の最新事情」(久本泰秀) 「生ゴミ減量の取り組み」(江口晴美)
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第8号2000年3月31日 第9号2000年6月30日 第10号2000年9月30日 第11号2000年12月29日	第3回工場見学会)	2000年7月6日 東浜リサイクルセンター	家電リサイクル工場
			第2回夏季研修会	2000年8月19,20日 県休養ホーム「もとの荘」	(1)グループ討議「環境保全活動を考える。」 (2)見学等のオプション研修 こて橋廃棄物最終処分場の見学(第4回工場見学会) 野鳥と谷津田の観察 木下層の地質観察と貝化石の採取
			第4回工場見学会	2000年8月19日 丸徳興業	こて橋廃棄物最終処分場
2001年度 平成13年度	EC千葉第4回定時総会 地球温暖化防止センター、廃棄物対策センターを新たなプロジェクトセンターとして設置。	2001年2月11日 千葉中央コミュニティーセンター	第7回環境セミナー	2001年2月11日 千葉中央コミュニティーセンター	(特別講演)「千葉県の産業廃棄物対策」 (県環境生活部産業廃棄物課副主査 根本久美子氏) 「地球温暖化防止対策-省エネナビによる省エネルギーの啓発」(村上利子) 「ISO認証取得支援活動について」(林正徳)
	「環境カウンセラー全国連合会」の設立	2001年9月8日 早稲田大学国際会議場	第5回施設見学会	2001年3月26日 大平興産	大塚山最終処分場
	地球温暖化防止活動推進員制度の発足	(平成13年9月に公募開始)	第8回環境セミナー	2001年5月13日 千葉中央コミュニティーセンター	(特別講演)「千葉県における地球温暖化防止に関する取組について」 (県環境生活部環境生活課政策室主幹兼室長 鶴巻成男氏) 「地球温暖化問題と解決の可能性」(荒野結也) 「省エネナビの普及活動のさらなる展開」(林正徳) 「省エネに関する一考察」(土田茂通)
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第12号2001年4月20日 第13号2001年8月5日	第3回夏季研修会	2001年8月26,28日 県環境研究センター	(講演)1.「千葉県の環境問題と環境研究センターの役割」 (鎗田環境研究センター長) 2.「循環型社会を考える」 (原環境研究センター廃棄物化学物質部長) (グループ討議)

地球温暖化対策センター/環境学習センター		各地の環境イベントへの参加		環境マネジメントシステム支援センター関係		
第1回自然観察会	1998年10月18日 千葉市昭和の森			第1回企業環境セミナー(共催行事)	1998年10月2日 幕張・セイコーインスツルメンツビル	「企業としての環境保全活動を考える。」
				第2回企業環境セミナー	1999年10月22日 シャープ幕張ビル	「ISO14001を認証取得するために」
第2回自然観察会	2000年4月23日 千葉市昭和の森					
		第8回いちかわ環境フェア	2000年6月10～12日 ニッケコルトンプラザ	第3回企業環境セミナー	2000年10月20日 シャープ幕張ビル	「ISO14001認証取得と環境経営」
		塚田公民館環境フェア	2000年9月3日 船橋市塚田公民館			
第3回自然観察会	2001年10月14日 鎌ヶ谷～船橋、白井地区の「川辺のウォーキング」	「暮らしと環境を考えようin袖ヶ浦」	2001年6月9日 袖ヶ浦市平岡公民館	第4回企業環境セミナー	2001年10月26日 シャープ幕張ビル	「ISO14001認証取得と経営革新」
		県環境研究センター「エコパーク2001」	2001年6月24日			
		東金市「アースセレブレーション2001」	2001年7月8日 東金文化会館			
		第6回塚田環境フェア	2001年9月2日 船橋市塚田公民館			
		千葉市消費生活展	2002年1月25、27日 千葉三越			

	組織・運営、外部関係		事業部関係		
2002年度 平成14年度	EC千葉定時総会	2002年2月23日 千葉大学西キャンパス	第9回環境セミナー	2002年2月24日 千葉大学西キャンパス	(特別講演)「環境問題とエネルギー問題の融和と新エネルギー」 (千葉大学工学部助教授佐藤建吉氏)
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第14号2002年1月6日 第15号2002年5月1日 第16号2002年8月10日 第17号2002年12月12日 第18号2002年3月10日	第10回環境セミナー	2002年5月12日 ばるるプラザCHIBA	メインテーマ「環境を考える」 (基調講演)「消費者運動から私がまなんだもの」(村上利子) (一般講演)1.「高校の環境教育の実践」(岩倉三好) 2.「最近の環境学習(市川市の取り組み)」(松本孝) 3.「市民活動から考える環境学習」(大西優子)
			第6回工場見学会	2002年7月11日 東電富津火力発電所他	TEPCO新エネルギーパーク 君津地域広域廃棄物処理施設(かずさクリーンシステム)
			第4回夏季研修会	2002年8月25、26日 国立環境研究所	(特別講演)「環境研究のこれから」(国立環境研究所合志理事長) (研究施設見学) (全員発表)環境カウンセラーとしての最近の活動
2003年度 平成15年度	環境カウンセラー千葉県協議会定時総会 (特定非営利活動法人化のために、これまでの任意団体としての環境カウンセラー千葉県協議会を解散。)	2003年3月29日 ばるるプラザ千葉	第11回環境セミナー	2003年3月29日 ばるるプラザ千葉	(総会特別講演)「やさしい燃料電池」(藤田忠宏)
	特定非営利活動法人環境カウンセラー千葉県協議会設立総会	2003年3月29日 ばるるプラザ千葉	第12回環境セミナー	2003年5月25日 県立中央博物館	(講演)1.「里山に映る環境問題」(生態環境研究部長 中村俊彦氏) 2.「環境のための批判的教育」(環境教育研究科長 小川かほる氏)
	環境カウンセラー千葉県協議会平成15年度定時総会に続いて、特定非営利活動法人としての設立総会(設立趣旨書、定款、運営細則の制定、理事18名、監事2名を新役員として選任。)				
	環境カウンセラー全国連合会(ECU) NPO法人設立総会 (7月1日内閣府へNPO法人認証申請)	2003年6月13日	第7回工場見学会	2003年7月10日 新日鉄君津製鉄所	プラスチックリサイクル工場の見学
	(平成15年度千葉県NPO活動提案募集事業) 「地球温暖化防止活動推進員の養成・ブラッシュアップのための研修会の開催」	5月23日事業提案応募 7月24日委託候補に決定 8月1日業務委託契約	第5回夏季研修会	2003年8月24、25日 ユートピア笠森	テーマ:「NPO法人としての今後の活動の活性化」 (講演)「NPO法人の今後の運営上の留意点について」 (県環境生活部NPO活動推進課長 森田昌雄氏) (ワークショップ討論)「NPO法人としての今後の活動の活性化」
	EC千葉NPO法人認証	平成15年7月22日付千葉県知事認証	第8回工場見学会	2004年2月14日 香取市和郷園	循環型農業の畜・農産廃棄物の有効利用
	ECU関東連絡会 (関東連絡会を発展的解消し、関東ブロック協議会として発足。)	2003年6月6日(高崎) 2003年10月(東京)	第9回施設見学会	2004年3月23日 (株)ムラマツ	廃棄木材を原料に炭や活性炭を製造する設備
	環境カウンセラー全国連合会(ECU)臨時総会 (平成15年10月1日内閣府認証を受けてNPO法人として出発。)	2003年12月9日 東京都北区滝野川会館			
広報「環境カウンセラーちば」の発行	第19号2003年7月6日 第20号2003年9月19日 第21号2004年2月21日				
2004年度 平成16年度	EC千葉通常総会	2004年6月6日 千葉市民会館	第13回環境セミナー	2004年6月6日 千葉市民会館	(総会特別講演)「下水からの窒素、りん除去技術の変遷」 (日大理工学部教授田中和博氏)
	EC千葉事務処理要領の制定	2004年8月1日	第10回工場見学会	2004年7月20日 サッポロビール千葉工場	ビール工場の製造・環境対策施設
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第22号2004年8月31日 第23号2004年12月1日	第6回秋季研修会	2004年11月28日 幕張OVTA	(講演)「環境教育推進法の基本方針について」 (環境省環境教育推進室 田島室長補佐) (ワークショップ討論)「新しい活動及び既存の活動の活性化」

地球温暖化対策センター/環境学習センター		各地の環境イベントへの参加		環境マネジメントシステム支援センター関係		
第1回「環境学習協力フェスティバル21」	2002年2月17日 千葉市生涯学習センター 深刻化する地球温暖化(荒野) 高等学校生物教諭(岩倉三好) 小学校教諭(今井美枝子) 日環協・環境指導員(林正徳) 省エネヒーロー(村上利子) プロジェクトワイルド(倉田智子)	東金市「アースセレブレーション2002」	2002年6月8日 東金文化会館	第5回企業環境セミナー	2002年10月25日 千葉商工会議所	「中小企業のISO効率的認証取得」
第4回自然観察会	2002年10月6日 千葉市昭和の森	暮らしと環境を考えようin袖ヶ浦	2002年6月15日 袖ヶ浦市市民会館			
環境教育・環境学習指導者養成セミナー (環境カウンセラー全国連合会との共催)	2002年12月23日 千葉市生涯学習センター 養成セミナー(先崎毅、富川昌美) 環境教育の進め方(倉田智子) 大気汚染の把握(横山新紀) 地球温暖化(秋元智子) ゴミリサイクルを考える(神崎広史) おいしい水(河井恵子) 自然とのつながり(松山みよ子)	県環境研究センター「エコパーク2002」	2002年6月29日			
第4回自然観察会	2003年5月18日昭和の森	東金市「アースセレブレーション2003」	2003年6月7日 東金文化会館	第6回企業環境セミナー	2003年10月17日 千葉商工会議所	「中小企業におけるISO14001の活用の仕方」
双方向の体験学習	(1)2003年4月20日 鎌ヶ谷市ホテルの里 (2)2003年6月8日 八千代市保品野草園 (3)2003年6月23日 柏市大堀川 (4)2003年9月20日 船橋市豊富どんぐりの森	「暮らしと環境を考えようin袖ヶ浦」	2003年6月22日 袖ヶ浦市市民会館			
		「白井市環境フォーラム」	2003年6月28日 白井市文化会館			
地球温暖化防止活動推進員の養成・ブラッシュアップのための研修会	(佐原)2003年11月15日、12月6日、 2004年1月17日 (柏)2003年11月21日、12月12日、 2004年1月23日 (袖ヶ浦)2003年11月27日、12月18日、 2004年1月29日	「エコメッセちば2003」	2003年11月9日			
(東京電力との協働事業1) 「地球温暖化対策学習会」(Part 1)	2004年1月25日 東京電力千葉支店					
(東京電力との協働事業2) 「地球温暖化対策学習会」(Part 2)	2004年2月4日 東電千葉火力発電所					
(東京電力との協働事業3) 「地球環境フォーラム千葉2004」	2004年2月27日 千葉市生涯学習センター					
環境カウンセラー全国連合会(ECU) 「介護施設における環境管理指導者養成講座」	2004年10月16～17日 東京都北区滝野川会館	鎌ヶ谷市民環境展」	2004年6月8～18日 鎌ヶ谷市役所	第7回企業環境セミナー	2004年10月22日 千葉商工会議所	「中小企業の環境マネジメントシステムの構築」
佐原市「子どもと一緒に環境学習の会」 (環境省関東地区環境対策調査官事務所主催)	2004年12月11日 佐原市中央公民館	東金市「アースセレブレーション2004」	2004年6月12日 東金文化会館			
		「エコメッセちば2004」	2004年8月8日 幕張メッセ国際会議場			
		「第3回白井市環境フォーラム」	2004年10月10日 白井市文化会館			

	組織・運営、外部関係		事業部関係		
2005年度 平成17年度	EC千葉第3回通常総会	2005年5月29日 千葉市民会館	第14回環境セミナー	2005年5月29日 千葉市民会館	(総会特別講演会)「バイオマス活用技術の動向と展望」 (独)農業工学研究所資源循環研究室長 袖山義人氏)
	EA21地域事務局の設立 (千葉県環境財団)	2005年4月1日 事務職員派遣の覚書締結	第1回環境公開講座	2005年7月23日 千葉市民会館	「水を貯える、水を育む」 (千葉大学園芸学部緑地環境学科教授 唐常源氏)
	県とNPOとの協働事業「中小企業向けの環境経営システム「エコアクション2.1」の普及事業」	7月5日事業提案 8月23日採択決定 9月22日業務委託契約	第11回工場見学会	2005年8月1日 キッコーマン野田工場	醤油工場の製造・環境対策施設
	環境省地方環境事務所を設置	2005年10月1日	第2回環境公開講座	2005年9月17日 千葉市民会館	「スクラップ経済からストック経済へ」 (千葉県印旛地域整備センター用地課長 石渡正佳氏)
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第24号2005年4月1日 第25号2005年8月1日 第26号2005年11月1日 第27号2006年3月1日	第7回秋季研修会	2005年11月26日 幕張・OVTA	(講演)「環境教育についての現状と今後の方向」 (県立中央博物館環境教育研究科長 小川かほる氏) (実績報告)「環境教育・環境学習をどう進めるか」 <船橋北高校の環境学習の実績を振り返って>
			第3回環境公開講座	2006年1月28日 千葉市民会館	「アスベスト問題にどう対処したらよいか」 (日本石綿協会処理部会長平井良夫氏)
2006年度 平成18年度	EC千葉第4回通常総会	2006年5月28日 千葉市民会館	第15回環境セミナー	2006年5月28日 千葉市民会館	(総会特別講演)「地球温暖化対策をめぐる課題と展望」 (埼玉環境科学国際センター長 須藤隆一氏)
	平成18年度千葉県NPOパワーアップ補助金事業	5月15日応募書提出 6月24日審査会採択決定 7月24日交付決定	第13回施設見学会	2006年9月8日 日本航空成田整備工場	航空機の整備および機体洗浄排水処理施設
	環境カウンセラー全国連合会(ECU) EC制度発足10周年及びECU設立5周年記念オープンフォーラム	2006年10月	第4回環境公開講座	2006年9月30日 千葉市民会館	「エネルギーと環境問題」(電力中央研究所理事 中岡 章氏)
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第28号2006年6月1日 第29号2006年10月1日 第30号2007年3月1日	第8回秋季研修会	2006年11月25日 幕張OVTA	(講演)「環境カウンセラーに期待すること」(環境省環境教育推進室 北沢室長) (ワークショップ討論)「環境カウンセラーの今後のあり方と 上野区環境協議会のさらなる活性化」
			第14回施設見学会	2007年2月22日 石井食品八千代工場 八千代松陰学園	食品工場および学校の太陽光発電施設
			第5回環境公開講座	2007年3月25日 千葉市民会館	「身近な課題としてみる生物多様性について」 (市川市環境清掃部自然環境課副主幹 須藤 治氏)
2007年度 平成19年度	第5回通常総会 (「アドバイザー制度」の導入)	2007年5月27日 千葉市民会館	第16回環境セミナー	2007年5月27日 千葉市民会館	(総会特別講演) 「自然環境保全と環境カウンセラー」 - 美しい日本の自然保護に取り組んで半世紀 - (小角浩)
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第31号2007年8月1日 第32号2007年12月1日	第15回施設見学会	2007年8月10日 宇宙航空研究開発機構 つくば宇宙センター	宇宙ロケットの開発・実験施設
			第6回環境公開講座	2007年9月1日 千葉市民会館	「バーチャル・ウォーターをご存じですか？」 (千葉県環境研究センター室長 小倉久子氏)
	平成19年度県NPOパワーアップ補助金事業 「高校での環境学習授業」	5月15日応募書提出 7月20日交付決定	第9回秋季研修会	2007年10月10日 幕張・OVTA	(講演)「IPCC第4次報告と地球温暖化問題の現状と動向」(環境省地球環境局研究調査室 世一室長補佐) (グループ討議)「環境カウンセラー及びEC千葉協議会として何をすべきか」
			第16回施設見学会	2008年1月22日 ちば野菊の里浄水場	活性炭およびオゾン処理などの水道の高度処理施設
			第7回環境公開講座	2008年3月15日 千葉市民会館	「アジア・太平洋水サミットと開発途上国の水問題」 (千葉大学環境リモートセンシング研究センター教授 近藤明彦氏)
2008年度 平成20年度	EC千葉第6回通常総会 「水環境対策センター」の設置 (水環境研究会からの発展)	2008年5月25日	第17回環境セミナー	2008年5月25日 千葉市民会館	(設立10周年記念特別講演会)「低炭素社会の構築に向けたロードマップ」 (独)国立環境研究所 芦名秀一氏)
	設立10周年記念パーティー	2008年5月25日 千葉・ペリエホール	第10回秋季研修会	2008年11月22,23日 幕張・OVTA	
	平成20年度千葉県とNPOとの協働事業提案 「浄化槽使用者に対する水質保全に関する啓発教育の実施」(水環境対策センター)	7月25日提案書提出 8月4日公開プレゼンテーション			
	県委託事業(県環境政策課) 「環境学習地域教材作成事業」	5月26日応募書提出 7月14日審査説明会			
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第33号2008年4月6日 第34号2008年8月1日			
	10年記念誌の発行予定				

地球温暖化対策センター/環境学習センター		各地の環境イベントへの参加		環境マネジメントシステム支援センター関係		
「夏休み親と子の環境学習会」(千葉友の会行事の支援)	2005年7月25日 千葉友の会	千葉市環境フェスティバル	2005年6月3日	内部監査員養成講座	2005年5月26,27日 千葉商工会議所	
		暮らしと環境を考えようIN袖ヶ浦	2005年6月11日 袖ヶ浦市民会館	第1回中小企業環境セミナー	2005年8月26日 千葉商工会議所	
県立船橋北高校環境学習授業の実施	2005年10月27日 (8テーマでの講義と実習)	「鎌ヶ谷市民環境展」	2005年6月19～24日 鎌ヶ谷市役所	第8回企業環境セミナー	2005年10月21日 千葉商工会議所	激動の時代を環境経営で勝ち抜く方法「エコアクション2.1」に取り組もう。
		県立中央博物館 特別企画「ワクワたいけん2005」	2005年7月～8月の4日 県立中央博物館	「千葉県環境経営セミナー」	2005年11月17日 プラザ菜の花	「ISO14001のゆくえ？」
		「エコメッセちば2005」	2005年9月18日 幕張メッセ国際会議場	E A 2.1普及セミナー	2005年12月2日:松戸 2005年12月14日:市川 2006年1月20日:佐原 2006年1月27日:君津	(千葉県等との共催) 「環境」で企業存続を図るため エコアクション2.1の認証・登録を!
		「白井市環境フォーラム」	2005年12月3日 白井市文化会館			(県とNPOとの協働事業)
		東金市「アースセレブレーション2005」	2006年1月14日 東金文化会館			
第5回自然観察会	2006年7月3,4日 尾瀬	「鎌ヶ谷市民環境展」	2006年6月18～23日 鎌ヶ谷市役所	E A 2.1普及セミナー	2006年8月25日 千葉商工会議所	「エコアクション2.1」に取り組もう。」
県立船橋北高校環境学習授業の実施	2006年10月12日 (県NPOパワーアップ補助金事業)	「エコメッセ 2006 in ちば」	2006年9月3日 幕張メッセ	E A 2.1普及セミナー	2006年9月28日 千葉県産協	産廃事業者向け 「エコアクション2.1」に取り組もう。」
第6回自然観察会	2006年12月9日 栗山川周辺	「環境シンポジウム2006千葉会議」	2006年9月24日 日本大学生産工学部	第9回企業環境セミナー	2006年10月20日 千葉商工会議所	「環境マネジメントから経営マネジメントへの転換」
見学会	2007年1月28日 県立中央博物館 「千葉の干潟展」	東金市「アースセレブレーション2006」	2007年1月20日 東金文化会館	E A 2.1普及セミナー	2006年11月17日 柏商工会議所	「エコアクション2.1」に取り組もう。」
		「白井市環境フォーラム」	2007年1月27日 白井市文化会館	ISO14001内部監査員養成講座	2006年5月18,19日 2006年11月28,29日 千葉商工会議所	
第7回自然観察会	2007年4月15日 筑波山	2007ちばし環境フェスティバル(ちばし手づくり環境博覧会)	2007年6月5日 千葉市文化センター	ISO14001内部監査員養成講座	2007年5月15,16日 2007年9月5,6日 千葉商工会議所	
「総合学習プログラム見本市」に参加	2007年8月7日 柏県民プラザ	「鎌ヶ谷市民手作り環境展」	2007年6月17～30日 鎌ヶ谷市生涯学習推進センター	ISO9001内部監査員養成講座	2007年6月21,22日 千葉商工会議所	
第8回自然観察会	2007年9月21～22日 上高地	「エコメッセ 2007 in ちば」	2007年9月9日 幕張メッセ	E A 2.1普及セミナー	2007年8月24日 千葉商工会議所	「エコアクション2.1」に取り組もう。」
県立茂原高校環境科学特別授業 (テーマ:「廃棄物」、「水質測定」、「バイオマスの活用」)	2007年9月20,27日 2007年10月4,11日 2007年11月15,22日 (平成19年度県NPOパワーアップ補助金事業)	「環境シンポジウム千葉会議2007」	2007年11月18日 千葉大学キャンパス	第10回企業環境セミナー	2007年10月19日 千葉商工会議所	「環境マネジメントシステムでの中小企業の生き残り作戦」
東京学館浦安高校環境授業 (テーマ:「水環境」、「廃棄物」)	2007年10月6日 2007年10月20日 (平成19年度県NPOパワーアップ補助金事業)	「東金アースセレブレーション」	2008年1月26日 東金文化会館	ISO9001内部監査員養成講座	2007年11月29,30日 千葉商工会議所	
第9回自然観察会	2008年2月23日 芝浦工大柏中学・高校、 北千葉導水ビジターセンター	「千葉市民活動センターまつり」	2008年2月2,3日 千葉市民活動センター	ISO14001内部監査員養成講座	2008年1月29,30日 2008年6月19,20日	
		「第6回白井市環境フォーラム」	2008年2月9日 白井市文化会館	E A 2.1普及セミナー	2008年2月18日 船橋商工会議所	「エコアクション2.1」に取り組もう。」
		「G20ちば2008」記念事業	2008年3月8,9日 幕張メッセ国際会議場			
東京学館浦安高校総合学習「エコライフ」授業 (「廃棄物と不法投棄」および「水環境」の2科目)	東京学館浦安高校 2008年5月31日 および 6月21日	「ちばし手づくり環境博覧会」	2008年6月5～10日 千葉市科学館(Qiball)	ISO9001内部監査員養成講座	2008年5月20,21日 2008年9月25,26日 千葉商工会議所	
第10回自然観察会 〔10周年記念自然観察会〕	2008年10月1,3日 十和田八幡平	「市原市夕方セミナー」	2008年7月10日 市原市市民会館	ISO14001内部監査員養成講座	2008年6月19,20日 千葉商工会議所	
		「エコメッセ 2008 in ちば」	2008年9月7日 幕張メッセ国際会議場	ISO14001内部監査員スキルアップ講座	2008年10月23,24日 千葉商工会議所	
				E A 2.1普及セミナー	2008年8月22日 千葉商工会議所	「エコアクション2.1」に取り組もう。」
				第11回企業環境セミナー	2008年10月17日 千葉商工会議所	「経営改善に役立てる環境マネジメントシステム」

編集後記

第6回通常総会直後に EC 千葉設立記念誌発行が企画され、広報の通常号と同じ体裁の特別号を当初立案した。しかし10年の歳月の長さや活動実績が豊富なことから記念誌の企画となった。工程を提示して詳細に内容・発行時期等つめていった。広報部員はもちろん、スターティングメンバーや、関心のある方に参加いただいた。編集会議を重ね、メールで頻りに連絡を取り合った。

資料の集積は多くの方の協力で集めることができた。特に初期のものについては至難かと思われたが、小角氏・有馬氏お二人からほとんどのものが提供された。協議会を大事に育ててこられたお二人ならではこのことと感謝している。もうひとつの情報源となる広報は編集長の交代で散逸したものもあり、探し出して合本にした。これには初代広報部長の佐藤（素）氏にご尽力願った。最終的な作業の数々にもお力添えくださっている。

役員名簿、年表などの記録は事務局長 服部氏がまとめた。総会議事録から拾い出したもので、その膨大、緻密な作業は感嘆に値する。記念誌の構成、校正には國廣氏が活躍した。いびつな画像が生き生き蘇る技術を披露したのは野口（康）氏、律儀な本間氏、重鎮土田氏、そして現役で活躍中の上口氏、さらに応援役松本氏、皆さんにお世話になった。まとめ役の二宮氏、理事長戸村氏のお二人は細部にわたり対応していただき、感謝の念に耐えない。なによりご寄稿くださった方々にお礼を申し上げる。

EC 千葉発展へのワンステップとなるべく、ここに10年の記録をお届けする。

(倉田智子)

EC 千葉 10 周年記念誌「10 年のあゆみ」

(発行日 平成 20 年 12 月 7 日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会

(発行責任者：戸村 泰 会員：128 名)

URL： [http:// www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm](http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm)

事務所：〒261-0011 千葉市美浜区真砂 3 丁目 18 番 2 棟 505 号 戸村 泰方

事務局：Tel& Fax 043-276-7300 服部達雄 ec_chiba_exec@yahoo.co.jp

編集：広報部 二宮 恵・倉田智子・佐藤素子・本間 格・上口清彦・松本源寿

協力 戸村 泰・土田茂通・野口康男・國廣隆紀 ほか多数の会員

発行部数：300 部

印刷：(株)弘文社 市川市市川南 2 - 7 - 2

Tel 047-324-5977 / Fax 047-323-1106